情報処理技能検定試験

表 計 算

模擬問題集

1・準1 級編

Microsoft Excel
試験問題解答方法
2025 年 4 月

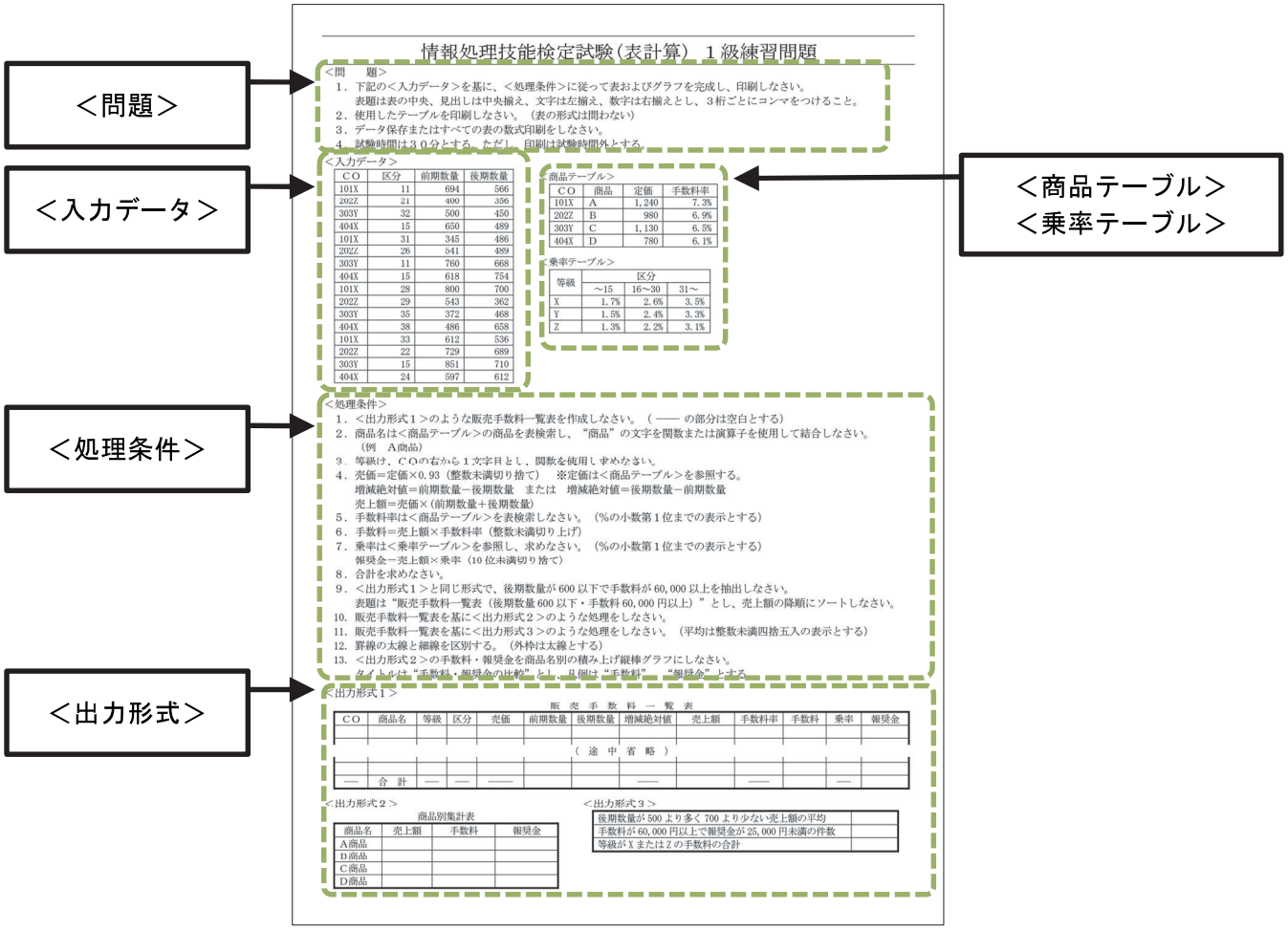
表計算

日本情報処理検定協会

情報処理技能検定試験（表計算）についての注意事項や作成手順などを紹介します。ここで紹介する手順は、Microsoft Excel2016を基に説明しています。※画面表示等は、バージョンにより異なる場合があります。

練習を始める前に

問題の構成



■＜問題＞
表を作成するにあたっての前提（項目の配置や表示形式の設定など）と試験時間について記載されています。

■＜入力データ＞
本問題で使用するデータが記載されています。＜入力データ＞は問題ごとに異なります。

■＜商品テーブル＞・＜乗率テーブル＞
本問題の処理条件の中で使用するテーブルや式、詳細の判定条件などが記載されています。これらのテーブルは、問題ごとに異なります。

■＜処理条件＞
表を作成する際に設定する計算式などの処理が記載されています。＜処理条件＞は問題ごとに異なります。

■＜出力形式＞
本問題で作成する表の形式が記載されています。
＜処理条件＞の中に、どの出力形式で作成するかの指示があるので、指示に従い作成します。
最終的にこの形式の表を作成し、答案として提出します。
作成する表の形式や数は問題によって異なります。

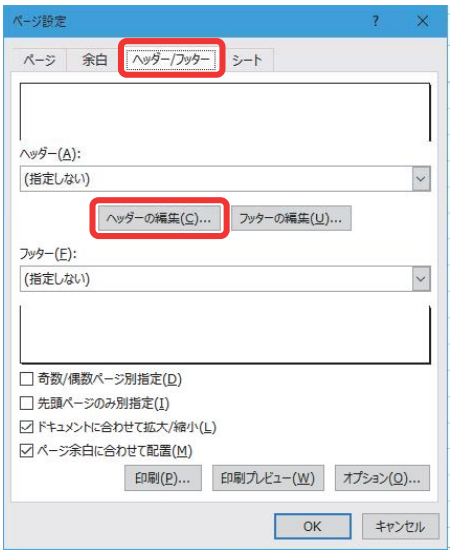
試験前にすること

受験番号・名前の入力

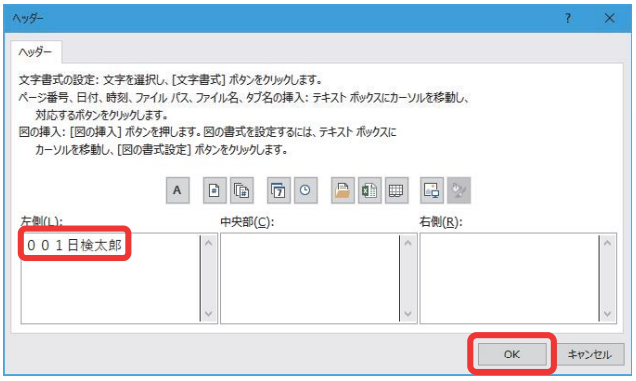
Ａ１セルもしくはヘッダーに受験番号と名前を入力します。
ここではヘッダーに入力して問題を解きます。

(1)［ページレイアウト］タブ-［ページ設定］グループの をクリックします。

(2)［ヘッダー/フッター］タブを選択し、［ヘッダーの編集］をクリックします。



(3)左側に「受験番号・名前」を入力して［OK］をクリックします。



検定のポイント

受験番号は試験日当日までに発表されます。

情報処理技能検定試験（表計算）１級練習問題

＜問　　題＞

１．下記の＜入力データ＞を基に、＜処理条件＞に従って表およびグラフを完成し、印刷しなさい。
　　表題は表の中央、見出しは中央揃え、文字は左揃え、数字は右揃えとし、３桁ごとにコンマをつけること。
２．使用したテーブルを印刷しなさい。（表の形式は問わない）
３．データ保存またはすべての表の数式印刷をしなさい。
４．試験時間は３０分とする。ただし、印刷は試験時間外とする。

＜入力データ＞

ＣＯ	区分	前期数量	後期数量
101X	11	694	566
202Z	21	400	356
303Y	32	500	450
404X	15	650	489
101X	31	345	486
202Z	26	541	489
303Y	11	760	668
404X	15	618	754
101X	28	800	700
202Z	29	543	362
303Y	35	372	468
404X	38	486	658
101X	33	612	536
202Z	22	729	689
303Y	15	851	710
404X	24	597	612

＜商品テーブル＞

ＣＯ	商品	定価	手数料率
101X	A	1,240	7.3%
202Z	B	980	6.9%
303Y	C	1,130	6.5%
404X	D	780	6.1%

＜乗率テーブル＞

等級	区分		
	～15	16～30	31～
X	1.7%	2.6%	3.5%
Y	1.5%	2.4%	3.3%
Z	1.3%	2.2%	3.1%

＜処理条件＞

１．＜出力形式１＞のような販売手数料一覧表を作成しなさい。（ ―― の部分は空白とする）
２．商品名は＜商品テーブル＞の商品を表検索し、“商品”の文字を関数または演算子を使用して結合しなさい。
　　（例　Ａ商品）
３．等級は、ＣＯの右から１文字目とし、関数を使用し求めなさい。
４．売価＝定価×0.93（整数未満切り捨て）　※定価は＜商品テーブル＞を参照する。
　　増減絶対値＝前期数量－後期数量　または　増減絶対値＝後期数量－前期数量
　　売上額＝売価×（前期数量＋後期数量）
５．手数料率は＜商品テーブル＞を表検索しなさい。（%の小数第１位までの表示とする）
６．手数料＝売上額×手数料率（整数未満切り上げ）
７．乗率は＜乗率テーブル＞を参照し、求めなさい。（%の小数第１位までの表示とする）
　　報奨金＝売上額×乗率（10 位未満切り捨て）
８．合計を求めなさい。
９．＜出力形式１＞と同じ形式で、後期数量が 600 以下で手数料が 60,000 以上を抽出しなさい。
　　表題は“販売手数料一覧表（後期数量 600 以下・手数料 60,000 円以上）”とし、売上額の降順にソートしなさい。
10．販売手数料一覧表を基に＜出力形式２＞のような処理をしなさい。
11．販売手数料一覧表を基に＜出力形式３＞のような処理をしなさい。（平均は整数未満四捨五入の表示とする）
12．罫線の太線と細線を区別する。（外枠は太線とする）
13．＜出力形式２＞の手数料・報奨金を商品名別の積み上げ縦棒グラフにしなさい。
　　タイトルは“手数料・報奨金の比較”とし、凡例は“手数料”、“報奨金”とする。

＜出力形式１＞

販　売　手　数　料　一　覧　表

ＣＯ	商品名	等級	区分	売価	前期数量	後期数量	増減絶対値	売上額	手数料率	手数料	乗率	報奨金
						（　途　中　省　略　）						
――	合　計	――	――	――			――		――		――	

＜出力形式２＞

商品別集計表

商品名	売上額	手数料	報奨金
Ａ商品			
Ｂ商品			
Ｃ商品			
Ｄ商品			

＜出力形式３＞

後期数量が 500 より多く 700 より少ない売上額の平均	
手数料が 60,000 円以上で報奨金が 25,000 円未満の件数	
等級が X または Z の手数料の合計	

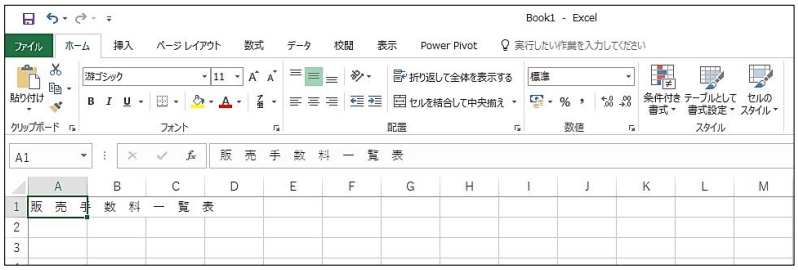
１級練習問題解答方法

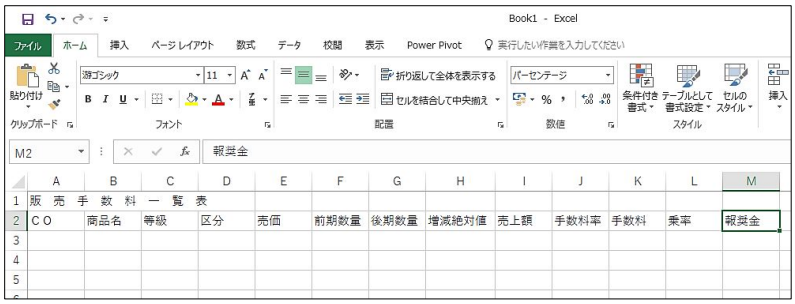
問題文を基に処理条件に従って１級の解答をします。

表題・見出し・入力データの入力

１．＜出力形式１＞のような販売手数料一覧表を作成しなさい。（ —— の部分は空白とする）

(1) Ａ１セルに「販売手数料一覧表」と入力し、「ＣＯ」から順に右へ「報奨金」までの見出しを入力します。





検定のポイント

表題や見出し、名前などの文字間隔は＜出力形式＞のとおりでなくても減点にはなりません。

(2) 見出しの下に入力データをすべて入力します。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N
1	販 売 手 数 料 一 覧 表													
2	ＣＯ	商品名	等級	区分	売価	前期数量	後期数量	増減絶対値	売上額	手数料率	手数料	乗率	報奨金	
3	101X			11		694	566							
4	202Z			21		400	356							
5	303Y			32		500	450							
6	404X			15		650	489							
7	101X			31		345	486							
8	202Z			26		541	489							
9	303Y			11		760	668							
10	404X			15		618	754							
11	101X			28		800	700							
12	202Z			29		543	362							
13	303Y			35		372	468							
14	404X			38		486	658							
15	101X			33		612	536							
16	202Z			22		729	689							
17	303Y			15		851	710							
18	404X			24		597	612							
19														

検定のポイント

＜出力形式＞の項目位置と＜入力データ＞の項目数・位置は違う場合が多いので、間違った位置に入力しないように注意してください。

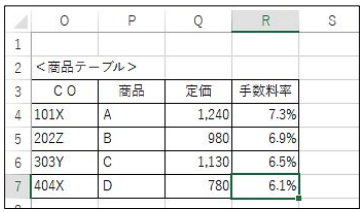
「商品名」項目の処理

２．商品名は＜商品テーブル＞の商品を表検索し、“商品”の文字を関数または演算子を使用して結合しなさい。
（例　Ａ商品）

複数の文字列（別々のセルにあるデータや文字列など）を結合して１つの文字列にします。
文字列の結合には“＆”演算子を使用します。

=VLOOKUP(A3, $O$4:$R$7, 2, 0)&"商品"
※「VLOOKUP(A3, $O$4:$R$7, 2, 0)」は＜商品テーブル＞の「商品」を表検索する関数
※「&」は半角で入力します
※「商品」は文字列なので「""」で囲みます

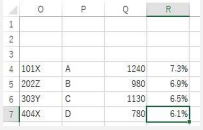
(1)＜商品テーブル＞を参照し、Ｏ２セルからテーブルを作成します。



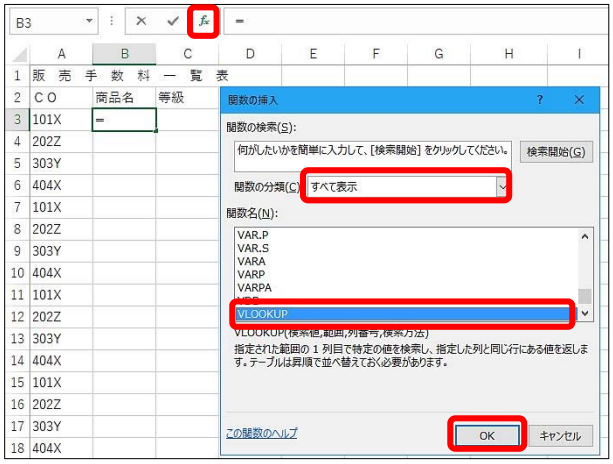
	O	P	Q	R	S
1					
2	＜商品テーブル＞				
3	ＣＯ	商品	定価	手数料率	
4	101X	A	1,240	7.3%	
5	202Z	B	980	6.9%	
6	303Y	C	1,130	6.5%	
7	404X	D	780	6.1%	

検定のポイント

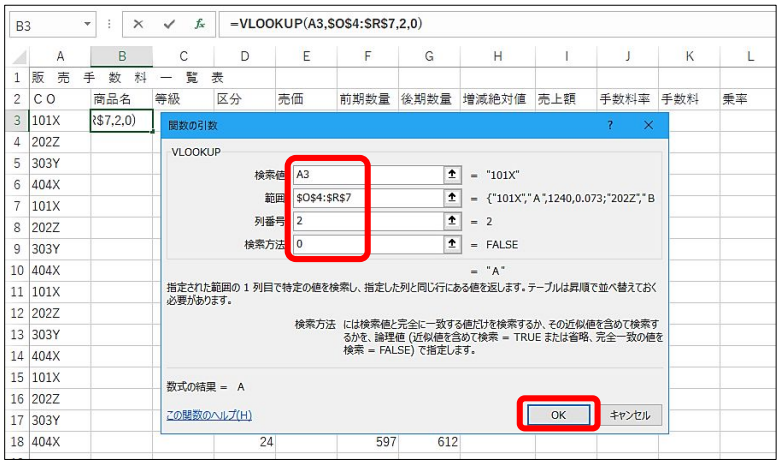
※表検索するテーブルの作成位置は問いません。
※完全一致の場合、検索箇所の数値を昇順にしなくても構いません。
※表検索するテーブルの表題、見出しや罫線がなくても減点にはなりません。



(2)数式バーの fx ［関数の挿入］をクリックし、[関数の挿入]ダイアログボックスで、[関数の分類]を[すべて表示]にして[ＶＬＯＯＫＵＰ]を選択し、[OK]をクリックします。



(3)[検索値]に「A3」、[範囲]に「$O$4:$R$7」と設定して、[列番号]に「2」、[検索方法]に「0」と入力し[OK]をクリックします。



(4)数式バーのＶＬＯＯＫＵＰ関数の後ろに「&"商品"」と入力します。

VLOOKUP　=VLOOKUP(A3,$O$4:$R$7,2,0)&"商品"

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	販　売　手　数　料　一　覧　表							
2	ＣＯ	商品名	等級	区分	売価	前期数量	後期数量	増減絶対値
3	101X	=VLOOKUP(A3,$O$4:$R$7,2,0)&"商品"					566	
4	202Z			21		400	356	
5	303Y			32		500	450	
6	404X			15		650	489	
7	101X			31		345	486	
8	202Z			26		541	489	

(5)結果が表示されていることを確認し、Ｂ１８セルまでコピーします。

B3　=VLOOKUP(A3,$O$4:$R$7,2,0)&"商品"

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	販　売　手　数　料　一　覧　表							
2	ＣＯ	商品名	等級	区分	売価	前期数量	後期数量	増減絶対値
3	101X	A商品		11		694	566	
4	202Z			21		400	356	
5	303Y			32		500	450	
6	404X			15		650	489	
7	101X			31		345	486	
8	202Z			26		541	489	

B3　=VLOOKUP(A3,$O$4:$R$7,2,0)&"商品"

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	販　売　手　数　料　一　覧　表							
2	ＣＯ	商品名	等級	区分	売価	前期数量	後期数量	増減絶対
3	101X	A商品		11		694	566	
4	202Z	B商品		21		400	356	
5	303Y	C商品		32		500	450	
6	404X	D商品		15		650	489	
7	101X	A商品		31		345	486	
8	202Z	B商品		26		541	489	
9	303Y	C商品		11		760	668	
10	404X	D商品		15		618	754	
11	101X	A商品		28		800	700	
12	202Z	B商品		29		543	362	
13	303Y	C商品		35		372	468	
14	404X	D商品		38		486	658	
15	101X	A商品		33		612	536	
16	202Z	B商品		22		729	689	
17	303Y	C商品		15		851	710	
18	404X	D商品		24		597	612	
19								

検定のポイント

CONCATENATE 関数を使用しても文字列を結合できます。

＜CONCATENATE 関数＞

=CONCATENATE(文字列１, 文字列２)

この処理の場合

=CONCATENATE(VLOOKUP(A3, $O$4:$R$7, 2, 0), "商品")

※文字列２の「商品」は文字列なので「""」で囲みます

関数の引数

CONCATENATE

文字列1　VLOOKUP(A3,$O$4:$R$7,2,0　= "A"

文字列2　"商品"　= "商品"

文字列3　= 文字列

文字列4　= 文字列

= "A商品"

複数の文字列を結合して 1 つの文字列にまとめます。

文字列3:　文字列1,文字列2,... には 1 つにまとめる 1 ～ 255 個までの文字列を指定できます。引数には文字列、数値、または単一セルの参照を指定します。

数式の結果 =　A商品

この関数のヘルプ(H)　OK　キャンセル

[文字列１]に「VLOOKUP(A3, $O$4:$R$7, 2, 0)」を挿入し、
[文字列２]に「"商品"」と入力します。

「等級」項目の処理

３．等級は、ＣＯの右から１文字目とし、関数を使用し求めなさい。

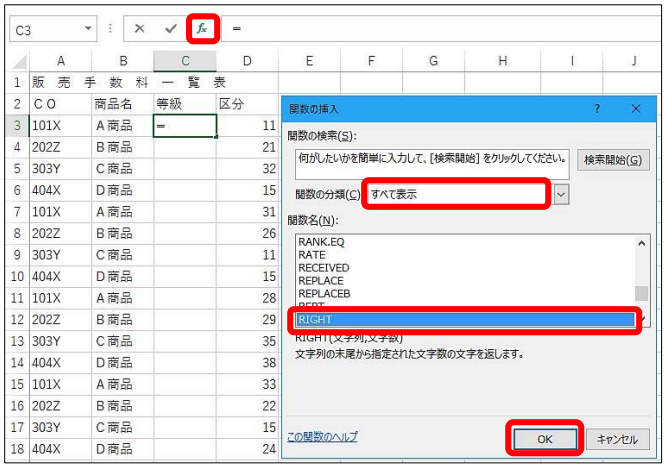
文字列の右端（末尾）から、指定した数の文字を求める場合、ＲＩＧＨＴ関数を使用します。
＜ＲＩＧＨＴ関数＞

=RIGHT(文字列, 文字数)　※[文字列]にはセル番地を設定できます。

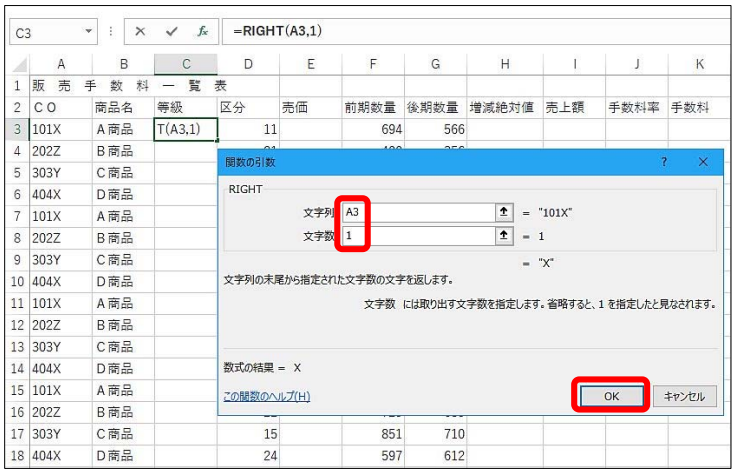
この処理条件の場合は、

=RIGHT(A3, 1)　※「Ａ３」セルは「ＣＯ」

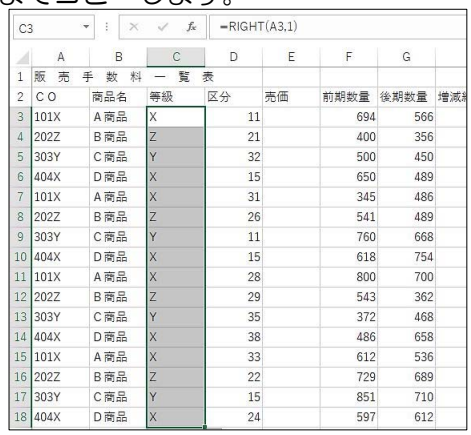
(1)数式バーの fx ［関数の挿入］をクリックし、[関数の挿入]ダイアログボックスで、[関数の分類]を[すべて表示]にして[ＲＩＧＨＴ]を選択し、[OK]をクリックします。



(2)[文字列]にＡ３セル（「ＣＯ」）をクリックし、[文字数]に「1」と入力して[OK]をクリックします。



(3)結果が表示されていることを確認し、Ｃ１８セルまでコピーします。



検定のポイント

ＬＥＦＴ関数

文字列の左端（先頭）から、指定した数の文字を求める場合、ＬＥＦＴ関数を使用します。

ＬＥＦＴ関数・・・ =LEFT(文字列, 文字数)

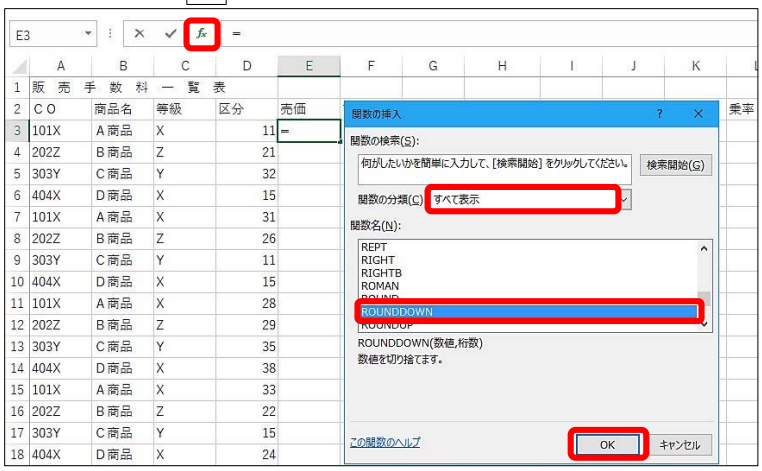
「売価」項目の処理

４．売価＝定価×0.93（整数未満切り捨て）　※定価は＜商品テーブル＞を参照する。

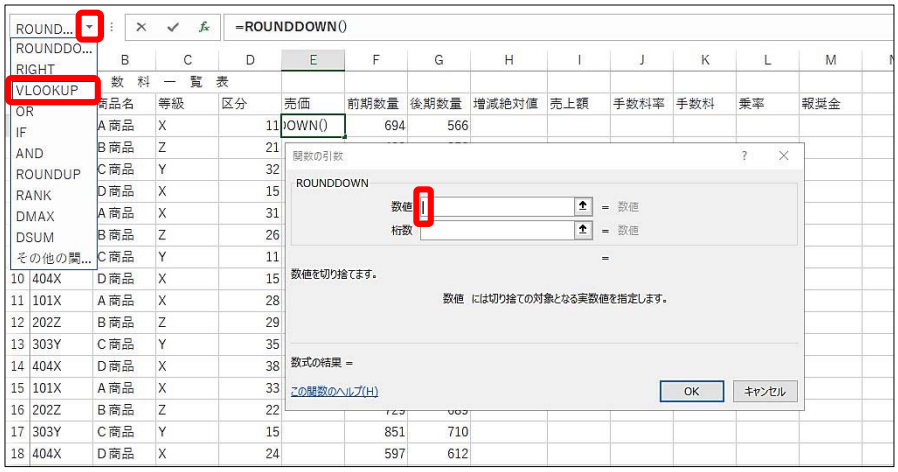
=ROUNDDOWN(VLOOKUP(A3, $O$4:$R$7, 3, 0)*0.93, 0)

※「VLOOKUP(A3, $O$4:$R$7, 3, 0)」は＜商品テーブル＞の「定価」を表検索する関数

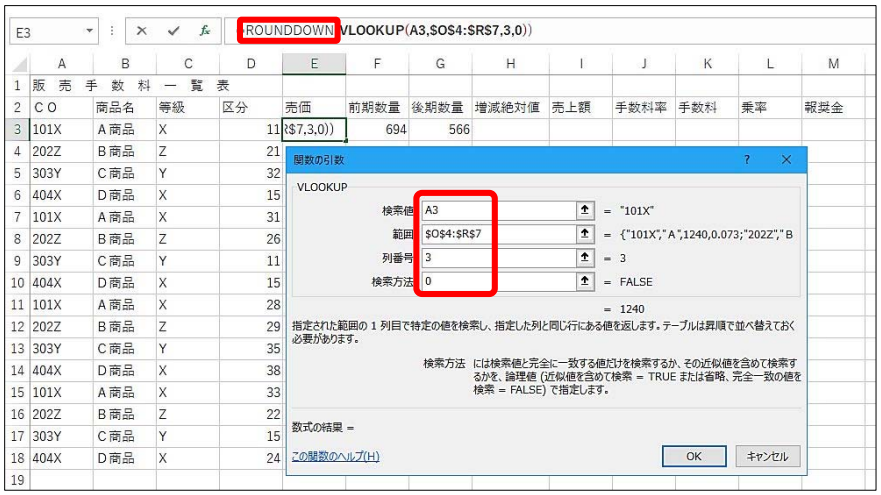
(1)数式バーの fx ［関数の挿入］をクリックします。［ROUNDDOWN］を選択して［OK］をクリックします。



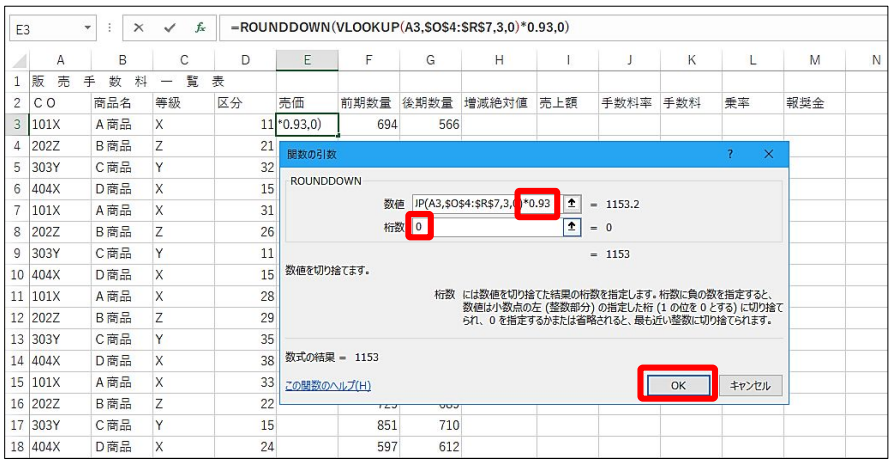
(2)［数値］にカーソルがある状態で［名前ボックス］から［ＶＬＯＯＫＵＰ］を選択します。



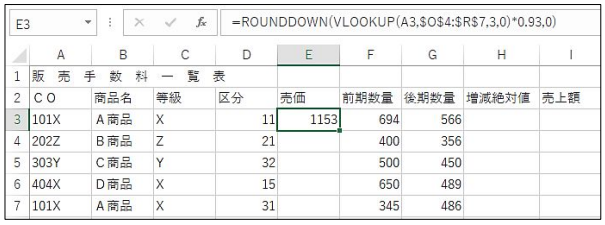
⑶ＶＬＯＯＫＵＰ関数の設定を行い、数式バーにある「ＲＯＵＮＤＤＯＷＮ」の文字をクリックし、ＲＯＵＮＤＤＯＷＮ関数のダイアログボックスに戻ります。

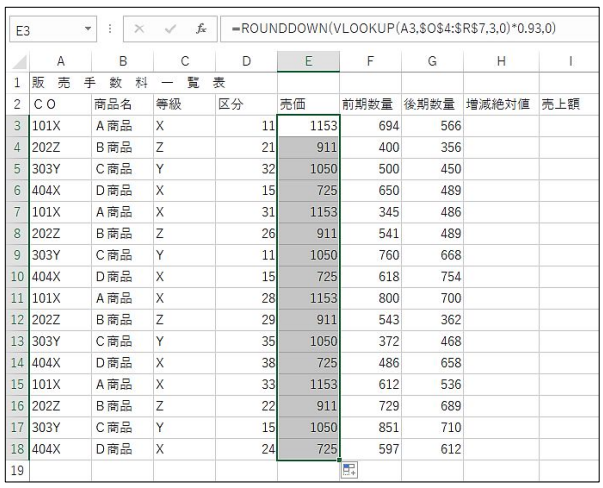


⑷[数値]の関数の後ろに「*0. 93」と入力し、[桁数]に「0」と入力して[OK]をクリックします。



⑸結果が表示されていることを確認し、Ｅ１８セルまでコピーします。





「増減絶対値」項目の処理

４．増減絶対値＝前期数量－後期数量　または　増減絶対値＝後期数量－前期数量

指定した数値の絶対値を求める場合、ＡＢＳ関数を使用します。

＜ＡＢＳ関数＞

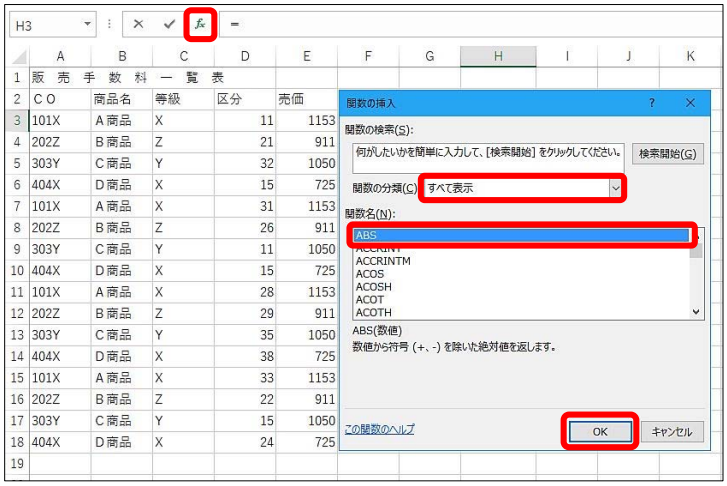
=ABS(数値)

この処理条件の場合は、

=ABS(F3-G3)　または　=ABS(G3-F3)

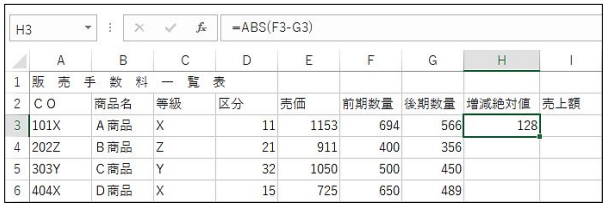
※「Ｆ３」セルは「前期数量」、「Ｇ３」セルは「後期数量」
※数値の式はどちらかの式を設定します。

(1)数式バーの fx ［関数の挿入］をクリックします。［ＡＢＳ］が選択されているのを確認し、［OK］をクリックします。



(2)［数値］に「F3-G3」と入力し、［OK］をクリックします。

(3)結果が表示されていることを確認し、Ｈ１８セルまでコピーします。



「売上額」項目の処理

4．売上額＝売価×(前期数量＋後期数量)

(1) I３セルに計算式「=E3*(F3+G3)」と入力します。

I3　=E3*(F3+G3)

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	販　売　手　数　料　一　覧　表									
2	ＣＯ	商品名	等級	区分	売価	前期数量	後期数量	増減絶対値	売上額	手数料率
3	101X	A 商品	X	11	1153	694	566	128	=E3*(F3+G3)	
4	202Z	B 商品	Z	21	911	400	356	44		
5	303Y	C 商品	Y	32	1050	500	450	50		
6	404X	D 商品	X	15	725	650	489	161		
7	101X	A 商品	X	31	1153	345	486	141		
8	202Z	B 商品	Z	26	911	541	489	52		

(2) 結果が表示されていることを確認し、I１８セルまでコピーします。

I3　=E3*(F3+G3)

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	販　売　手　数　料　一　覧　表									
2	ＣＯ	商品名	等級	区分	売価	前期数量	後期数量	増減絶対値	売上額	手数料率
3	101X	A 商品	X	11	1153	694	566	128	1452780	
4	202Z	B 商品	Z	21	911	400	356	44		
5	303Y	C 商品	Y	32	1050	500				
6	404X	D 商品	X	15	725	650				
7	101X	A 商品	X	31	1153	345				
8	202Z	B 商品	Z	26	911	541				
9	303Y	C 商品	Y	11	1050	760				

I3　=E3*(F3+G3)

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	販　売　手　数　料　一　覧　表									
2	ＣＯ	商品名	等級	区分	売価	前期数量	後期数量	増減絶対値	売上額	手数料率
3	101X	A 商品	X	11	1153	694	566	128	1452780	
4	202Z	B 商品	Z	21	911	400	356	44	688716	
5	303Y	C 商品	Y	32	1050	500	450	50	997500	
6	404X	D 商品	X	15	725	650	489	161	825775	
7	101X	A 商品	X	31	1153	345	486	141	958143	
8	202Z	B 商品	Z	26	911	541	489	52	938330	
9	303Y	C 商品	Y	11	1050	760	668	92	1499400	
10	404X	D 商品	X	15	725	618	754	136	994700	
11	101X	A 商品	X	28	1153	800	700	100	1729500	
12	202Z	B 商品	Z	29	911	543	362	181	824455	
13	303Y	C 商品	Y	35	1050	372	468	96	882000	
14	404X	D 商品	X	38	725	486	658	172	829400	
15	101X	A 商品	X	33	1153	612	536	76	1323644	
16	202Z	B 商品	Z	22	911	729	689	40	1291798	
17	303Y	C 商品	Y	15	1050	851	710	141	1639050	
18	404X	D 商品	X	24	725	597	612	15	876525	

「手数料率」項目の処理

5．手数料率は＜商品テーブル＞を表検索しなさい。(%の小数第１位までの表示とする)

(1) ＶＬＯＯＫＵＰ関数のダイアログボックスを使用して設定を行います。

J3　=VLOOKUP(A3,$O$4:$R$7,4,0)

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R
1	販　売　手　数　料　一　覧　表																	
2	ＣＯ	商品名	等級	区分	売価	前期数量	後期数量	増減絶対値	売上額	手数料率	手数料	乗率	報奨金		＜商品テーブル＞			
3	101X	A 商品	X	11	1153	694	566	128	1452780	(R$7,4,0)					ＣＯ	商品	定価	手数料率
4	202Z	B 商品	Z	21											101X	A	1,240	7.3%
5	303Y	C 商品	Y	32											202Z	B	980	6.9%
6	404X	D 商品	X	15											303Y	C	1,130	6.5%
7	101X	A 商品	X	31											404X	D	780	6.1%
8	202Z	B 商品	Z	26														
9	303Y	C 商品	Y	11														
10	404X	D 商品	X	15														
11	101X	A 商品	X	28														
12	202Z	B 商品	Z	29														
13	303Y	C 商品	Y	35														
14	404X	D 商品	X	38														
15	101X	A 商品	X	33														
16	202Z	B 商品	Z	22														
17	303Y	C 商品	Y	15														
18	404X	D 商品	X	24														

関数の引数　?　×

VLOOKUP

検索値　A3　=　"101X"

範囲　$O$4:$R$7　=　{"101X","A",1240,0.073;"202Z","B

列番号　4　=　4

検索方法　0　=　FALSE

=　0.073

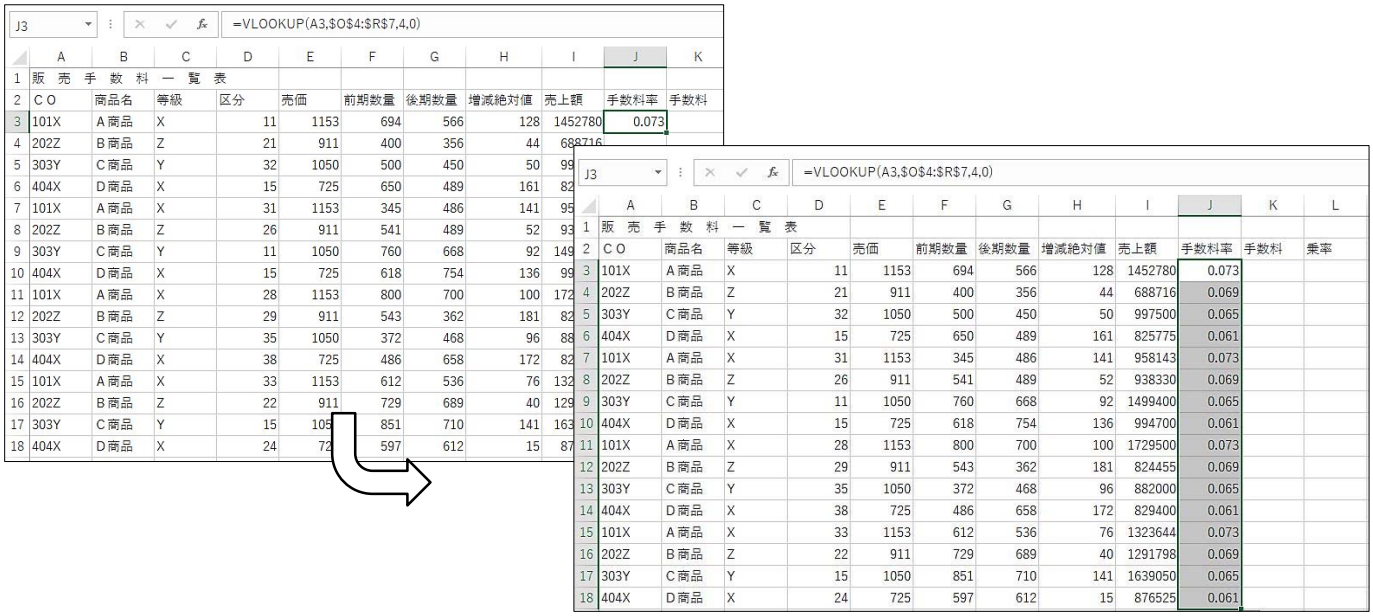
指定された範囲の 1 列目で特定の値を検索し、指定した列と同じ行にある値を返します。テーブルは昇順で並べ替えておく必要があります。

検索方法　には検索値と完全に一致する値だけを検索するか、その近似値を含めて検索するかを、論理値 (近似値を含めて検索 = TRUE または省略、完全一致の値を検索 = FALSE) で指定します。

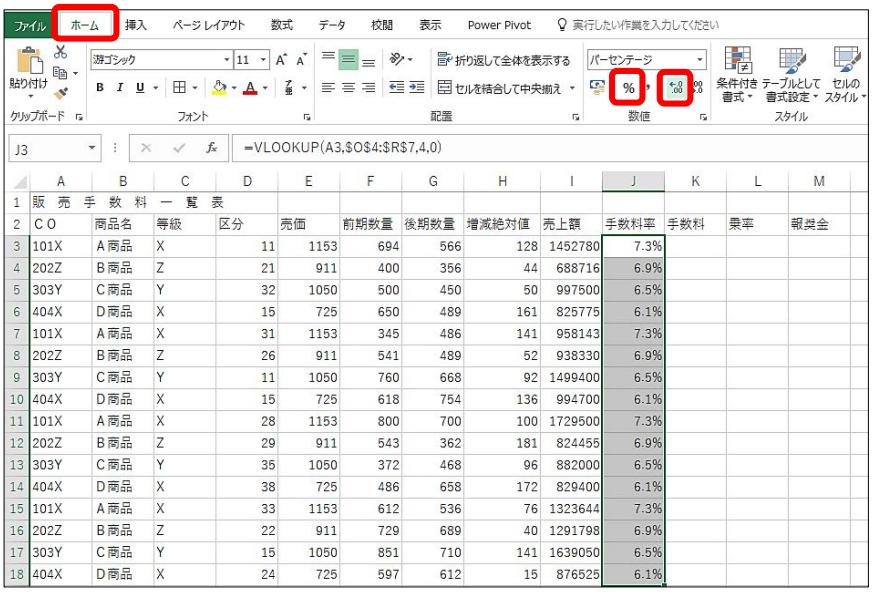
数式の結果 =　0.073

この関数のヘルプ(H)　OK　キャンセル

⑵ Ｊ１８セルまでコピーします。



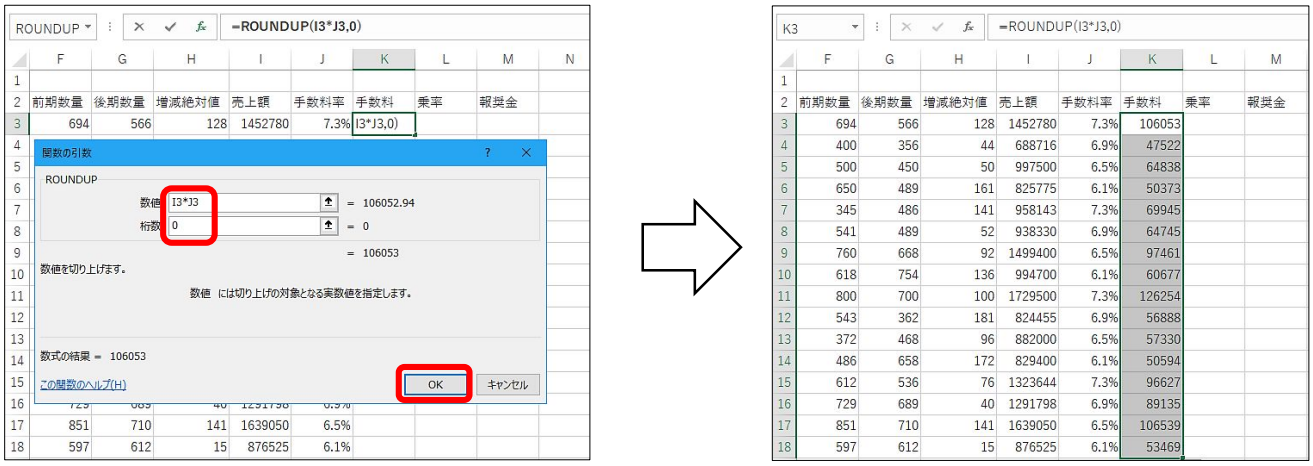
⑶ Ｊ３セルからＪ１８セルまで選択されている状態で、[ホーム]タブ-[数値]グループの％をクリックし、←.0 .00を１回クリックして「％の小数第１位までの表示」にします。



「手数料」項目の処理

６．手数料＝売上額×手数料率（整数未満切り上げ）

⑴ＲＯＵＮＤＵＰ関数のダイアログボックスを使用して設定を行い、Ｋ１８セルまでコピーします。



「乗率」項目の処理

７．乗率は＜乗率テーブル＞を参照し、求めなさい。（%の小数第１位までの表示とする）

１級では、下位級で学んだ関数を応用した問題が出題されます。
ここでは、VLOOKUP 関数の列番号が変動する場合の処理方法のひとつを学びます。

=VLOOKUP(C3, $O$12:$R$14, IF(D3<=15, 2, IF(D3<=30, 3, 4)), 0)

※「Ｃ３」セルは「等級」
※「Ｏ１２」セルから「Ｒ１４」セルは別で作成した項目名を含めない＜乗率テーブル＞
※「IF(D3<=15, 2, IF(D3<=30, 3, 4))」は列番号を求める式

列番号の求め方
「区分」の値を使って列番号を導きます。

IF(D3<=15, 2, IF(D3<=30, 3, 4)

＜乗率テーブル＞

等級	区分		
	～15	16～30	31～
X	1.7%	2.6%	3.5%
Y	1.5%	2.4%	3.3%
Z	1.3%	2.2%	3.1%
	１列目	２列目	３列目	４列目

操作のポイント

「区分」が、
１５以下の場合、「2」列目に、
３０以下の場合、「３」列目に、
３１以降は「４」列目になるよう
判断文（IF 関数）で処理するよう設定します。

(1)問題文の＜乗率テーブル＞を参照し、Ｏ９セルから作成します。

報奨金

＜商品テーブル＞

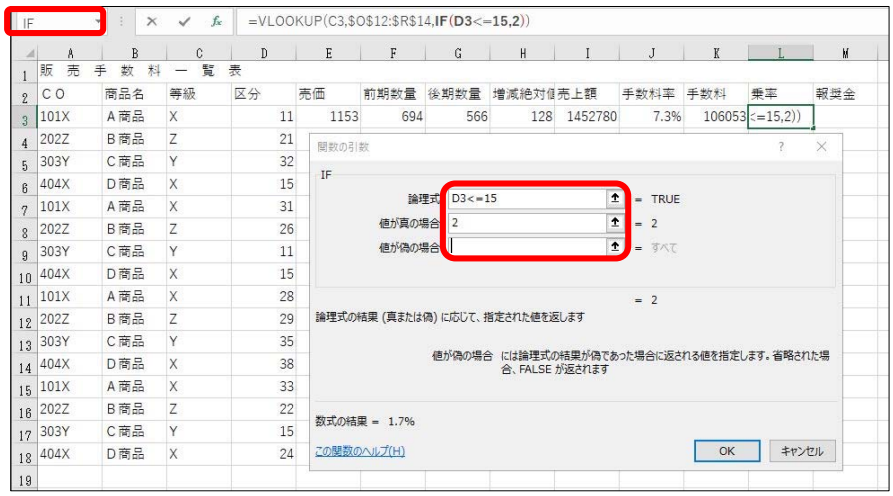
ＣＯ	商品	定価	手数料率
101X	A	1,240	7.3%
202Z	B	980	6.9%
303Y	C	1,130	6.5%
404X	D	780	6.1%

＜乗率テーブル＞

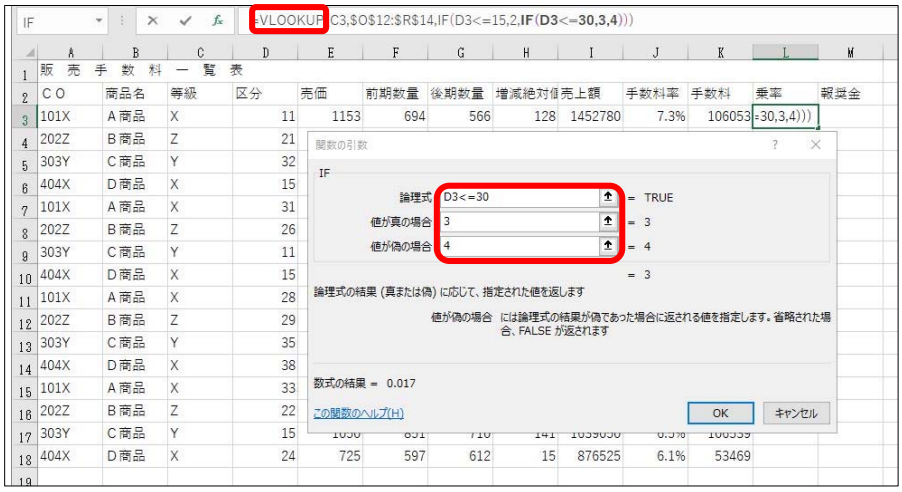
等級	区分		
	～15	16～30	31～
X	1.7%	2.6%	3.5%
Y	1.5%	2.4%	3.3%
Z	1.3%	2.2%	3.1%

(2)[列番号]にカーソルがある状態で[名前ボックス]から[ＩＦ]を選択します。

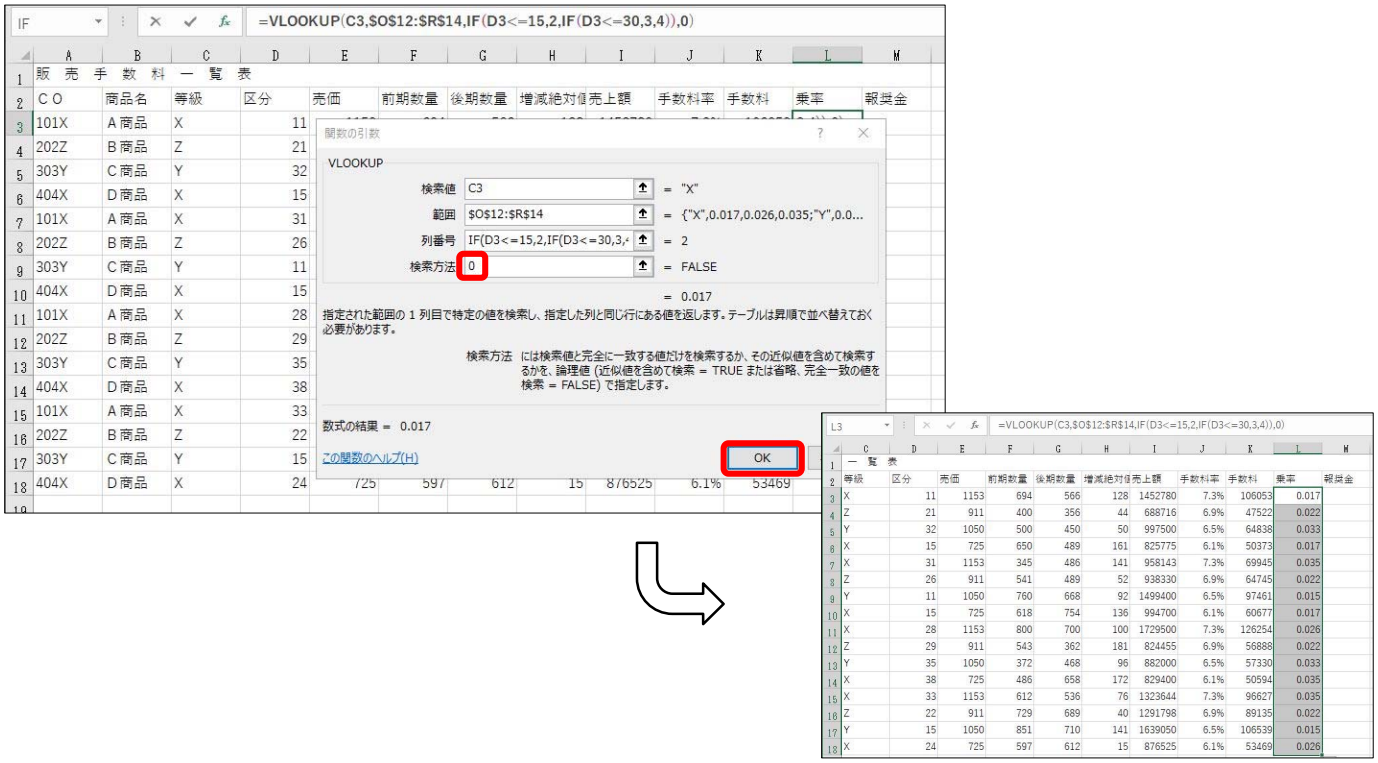
⑶［論理式］に「D3<=15」、［値が真の場合］に「2」、［値が偽の場合］にカーソルがある状態で再度［名前ボックス］から［ＩＦ］を選択します。



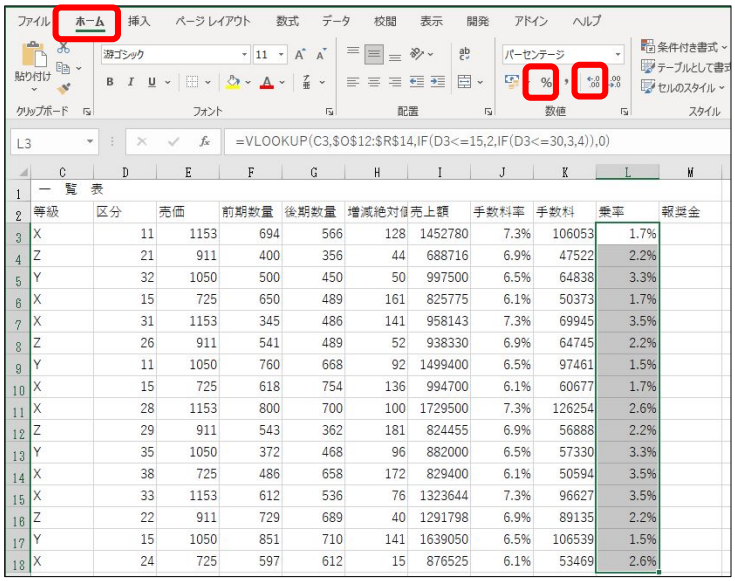
⑷［論理式］に「D3<=30」、［値が真の場合］に「3」、［値が偽の場合］に「4」と入力して数式バーにある「ＶＬＯＯＫＵＰ」の文字をクリックし、ＶＬＯＯＫＵＰ関数のダイアログボックスに戻ります。



⑸［検索方法］に「0」と入力し［OK］をクリックしてダイアログボックスを閉じたあと、Ｌ３の内容をＬ１８セルまでコピーします。



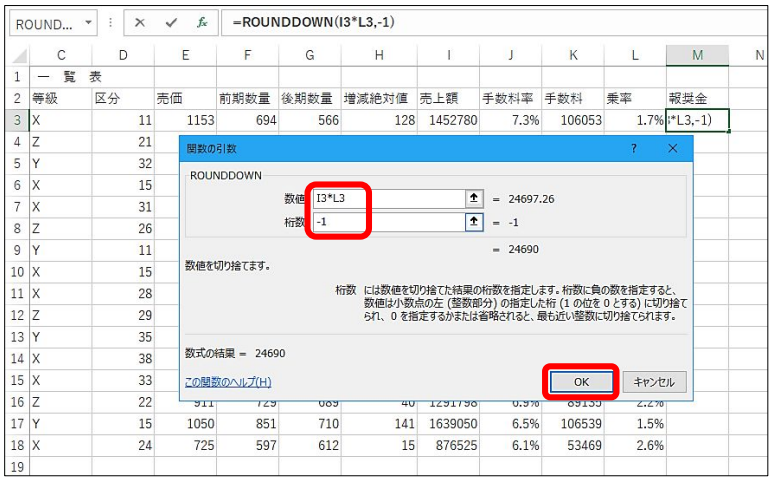
(6)Ｌ３セルからＬ１８セルまで選択されている状態で、[ホーム]タブ-[数値]グループの％をクリックし、を１回クリックして「％の小数第１位までの表示」にします。

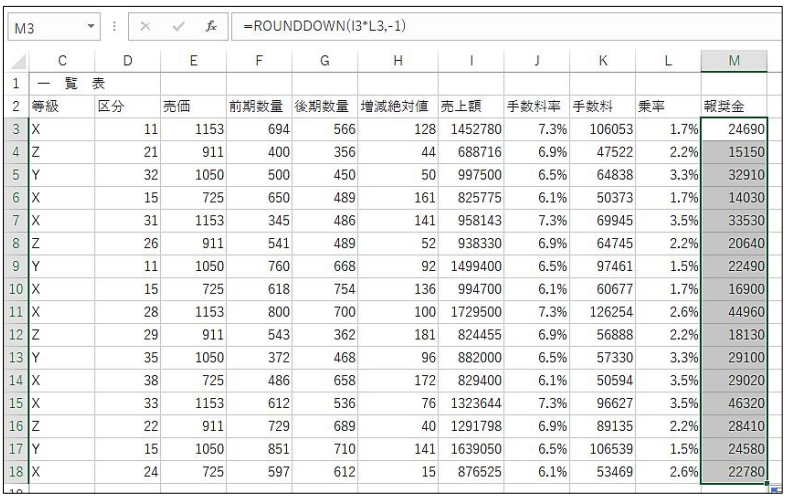


「報奨金」項目の処理

７．報奨金＝売上額×乗率（10 位未満切り捨て）

(1)ＲＯＵＮＤＤＯＷＮ関数のダイアログボックスを使用して設定を行い、Ｍ１８セルまでコピーします。

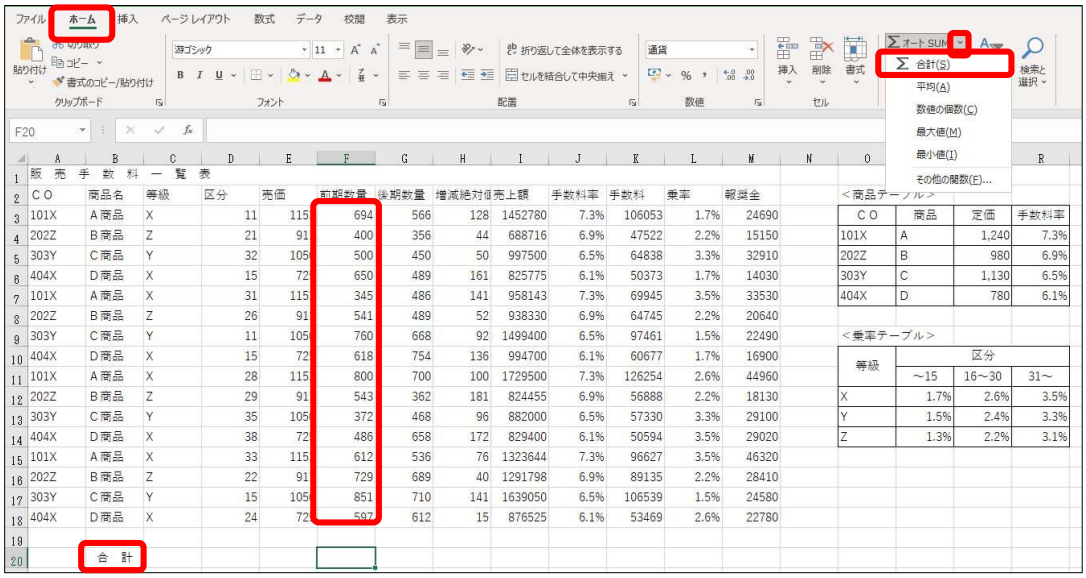




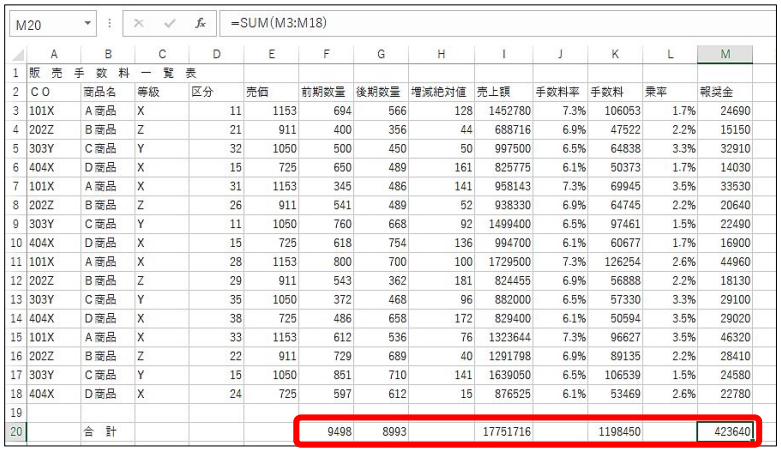
「合計」項目の処理

８．合計を求めなさい。

(1)見出しを入力し、[ホーム]タブ-[編集]グループの Σ 横の ▼ をクリックし、[合計]をクリックします。Ｆ３セルからＦ１８セルまでドラッグして（自動的に「:」が入る） Enter キーを押します。



(2)結果が表示されていることを確認し、Ｍ２０セルまでコピーします。



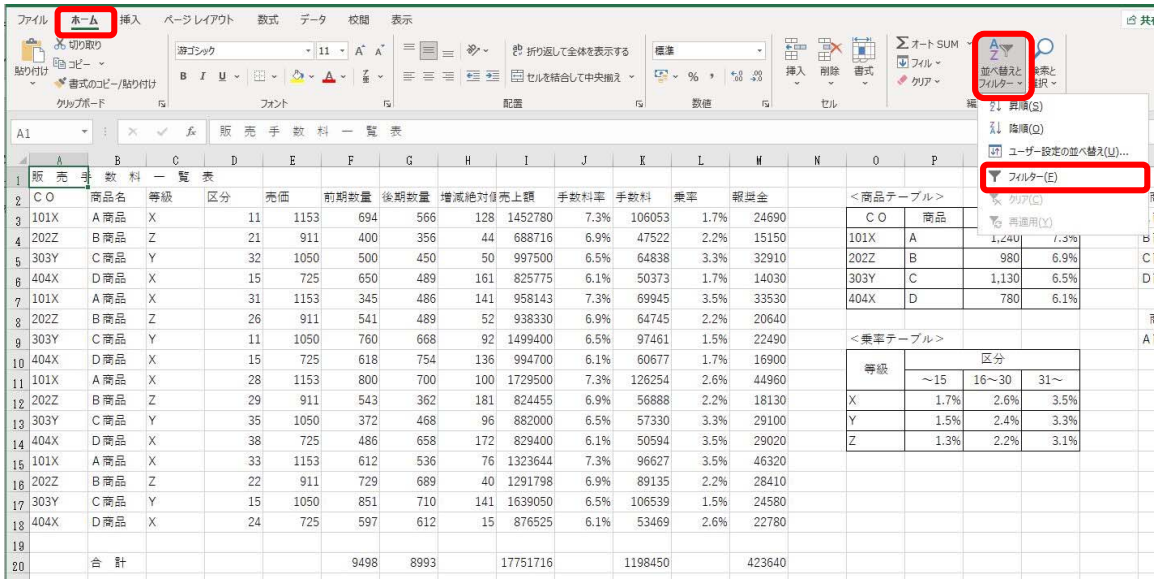
検定のポイント

※「合計」の文字間隔は、＜出力形式＞のとおりでなくても減点にはなりません。
※問題文の「―」の部分に値を設定すると減点となります。（文字列「―」（ハイフンなど）は入力する必要はありません。）

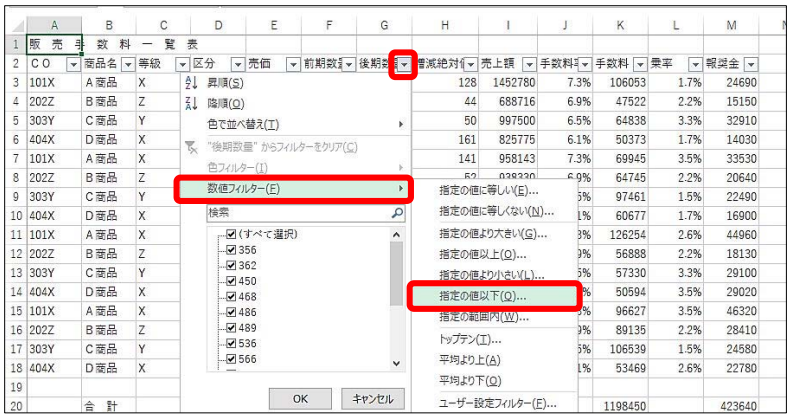
抽出の処理

9．＜出力形式１＞と同じ形式で、後期数量が 600 以下で手数料が 60,000 以上を抽出しなさい。
表題は“販売手数料一覧表（後期数量 600 以下・手数料 60,000 円以上）”とし、売上額の降順にソートしなさい。

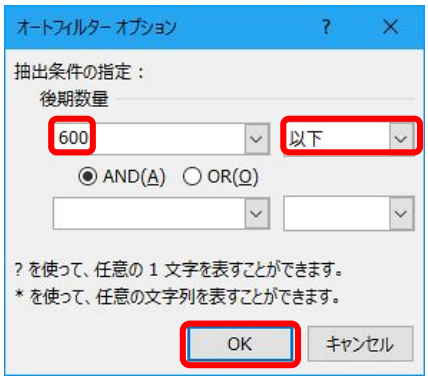
(1)[ホーム]タブ-[編集]グループの [並べ替えとフィルター]から[フィルター]を選択します。



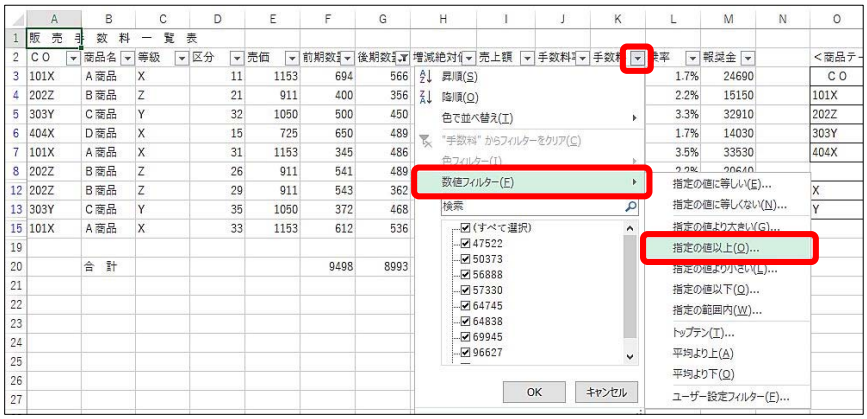
(2)「後期数量」の をクリックし、[数値フィルター]の[指定の値以下]を選択します。



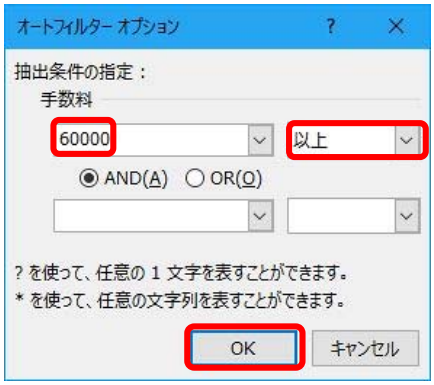
(3)[後期数量]に「600」と入力し、[以下]となっていることを確認して[OK]をクリックします。



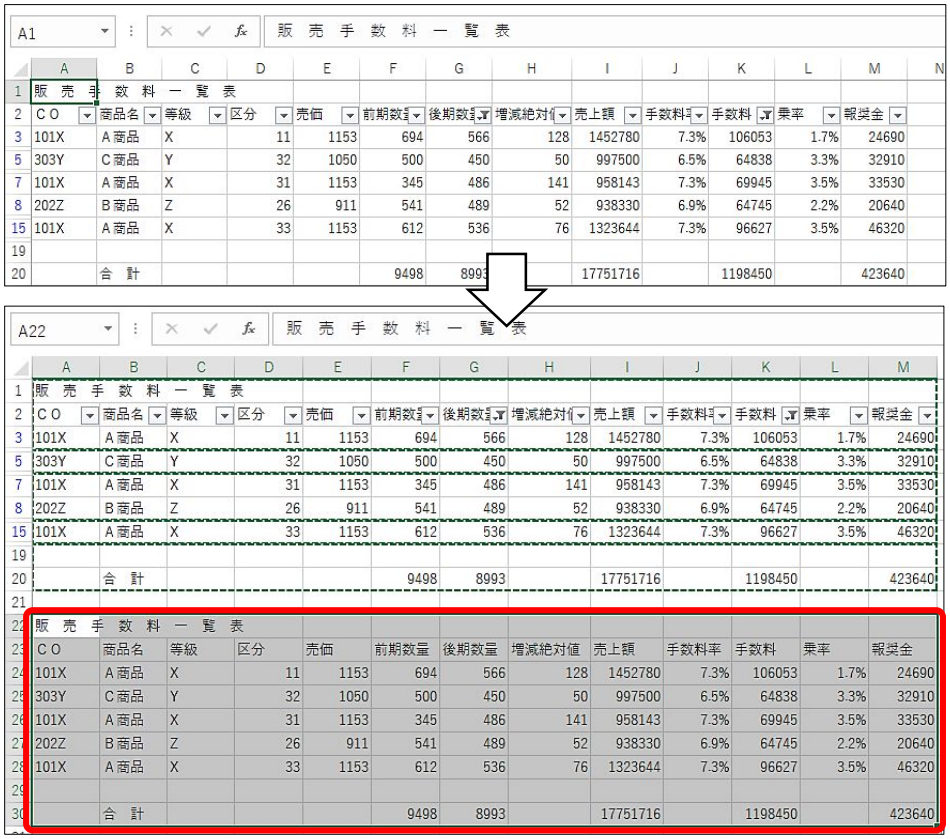
(4)「手数料」の ▾ をクリックし、[数値フィルター]の[指定の値以上]を選択します。



(5)[手数料]に「60000」と入力し、[以上]となっていることを確認し、[OK]をクリックします。



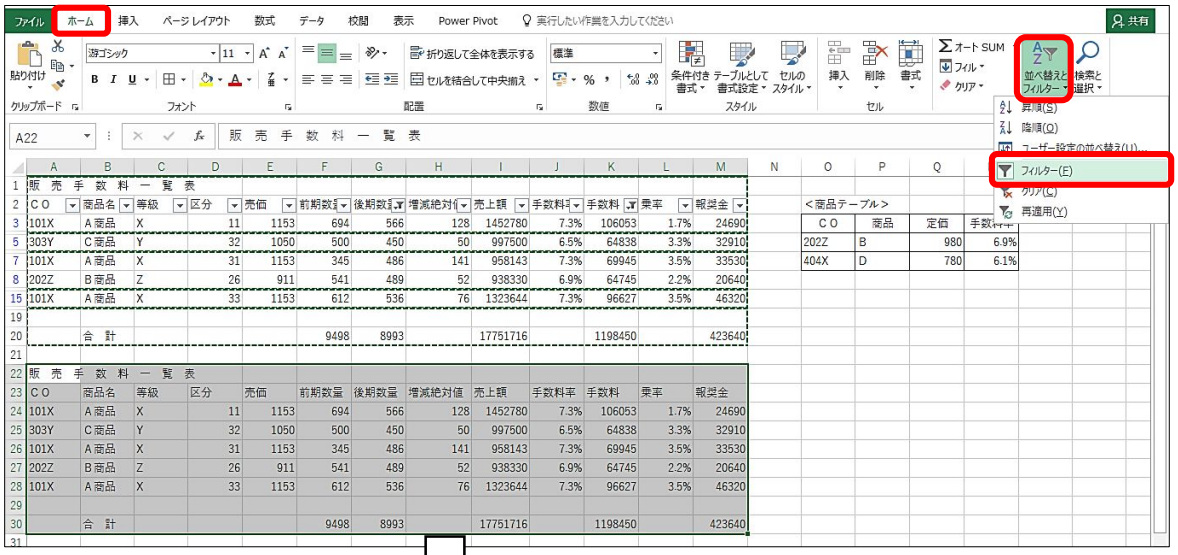
(6)結果が表示されていることを確認し、表示されている表全体をコピーして、Ａ２２セルに貼り付けます。

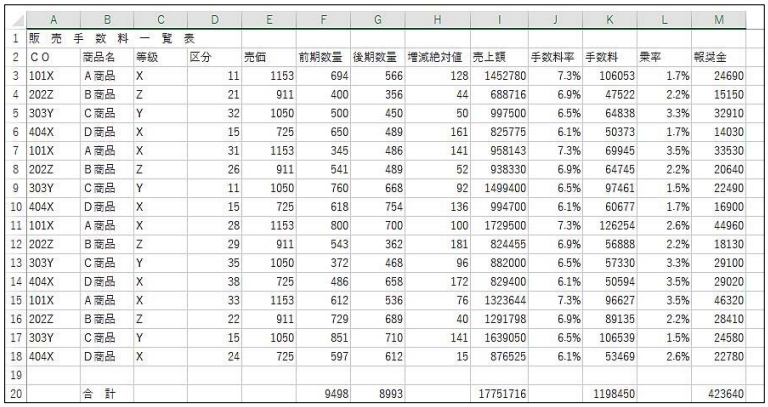


検定のポイント

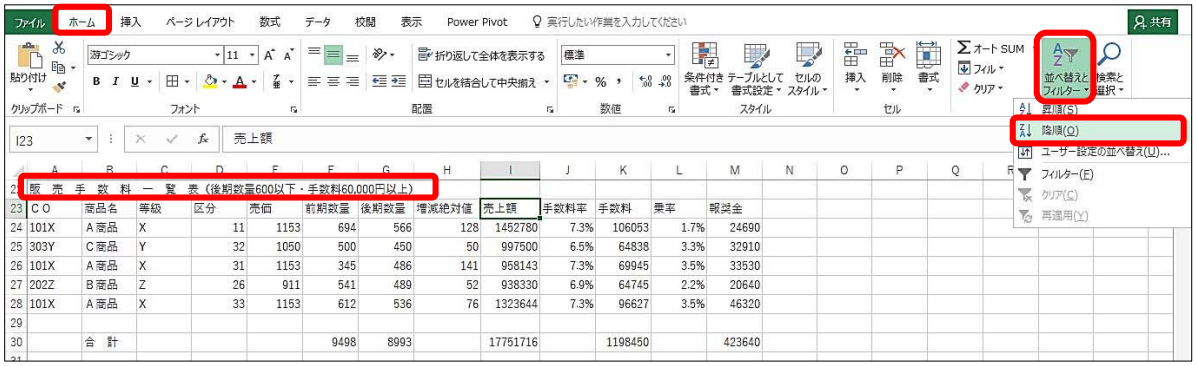
貼り付け位置は問いません。

(7) [ホーム]タブ-[編集]グループの [並べ替えとフィルター]から[フィルター]を選択し、フィルターを解除します。





(8) 表題を指示どおりに入力し、１列の任意のセルをクリックします。（ここでは１２３セルを選択）
[ホーム]タブ-[編集]グループの [並べ替えとフィルター]をクリックし、[降順]を選択します。



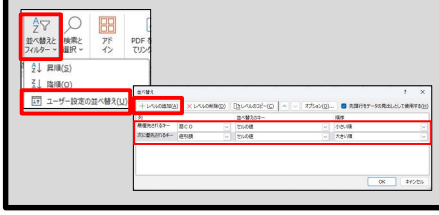
複数条件での並べ替え

例）商ＣＯの昇順で値引額の降順にソートしなさい。

まず第１の条件で並べ替え、その中でさらに第２の条件を使って並べ替えをします。

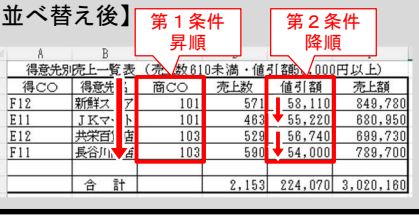
① [並べ替えとフィルター]をクリックし、[ユーザー設定の並べ替え]を選択。

② [並べ替え]の最優先されるキーに「商ＣＯ」を設定し、順序を「小さい順」（昇順）とし、[レベルの追加]をクリックし、次に優先されるキーに「値引額」を設定して順序を「大きい順」（降順）とする。



【並べ替え前】

【並べ替え後】



⑼基表の合計値のままになっているため、合計の処理を行います。

M30 =SUM(M24:M28)

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
22	販　売　手　数　料　一　覧　表（後期数量600以下・手数料60,000円以上）												
23	ＣＯ	商品名	等級	区分	売価	前期数量	後期数量	増減絶対値	売上額	手数料率	手数料	乗率	報奨金
24	101X	Ａ商品	X	11	1153	694	566	128	1452780	7.3%	106053	1.7%	24690
25	101X	Ａ商品	X	33	1153	612	536	76	1323644	7.3%	96627	3.5%	46320
26	303Y	Ｃ商品	Y	32	1050	500	450	50	997500	6.5%	64838	3.3%	32910
27	101X	Ａ商品	X	31	1153	345	486	141	958143	7.3%	69945	3.5%	33530
28	202Z	Ｂ商品	Z	26	911	541	489	52	938330	6.9%	64745	2.2%	20640
29													
30		合　計				2692	2527		5670397		402208		158090

＜出力形式２＞「商品別集計表」の処理

10.　販売手数料一覧表を基に＜出力形式２＞のような処理をしなさい。

＜出力形式１＞の販売手数料一覧表から、商品名ごとに売上額・手数料・報奨金のレコードを集計（合計）した商品別集計表（＜出力形式２＞）を作成します。

例）Ａ商品の売上額を集計（合計）

販売手数料一覧表（抜粋）

ＣＯ	商品名	等級	…	増減絶対値	売上額	…	手数料	乗率	報奨金
101X	Ａ商品	X	…	128	1, 452, 780	…	106, 053	1. 7%	24, 690
202Z	Ｂ商品	Z	…	44	688, 716	…	47, 522	2. 2%	15, 150
303Y	Ｃ商品	Y	…	50	997, 500	…	64, 838	3. 3%	32, 910
404X	Ｄ商品	X	…	161	825, 775	…	50, 373	1. 7%	14, 030
101X	Ａ商品	X	…	141	958, 143	…	69, 945	3. 5%	33, 530
202Z	Ｂ商品	Z	…	52	938, 330	…	64, 745	2. 2%	20, 640
303Y	Ｃ商品	Y	…	92	1, 499, 400	…	97, 461	1. 5%	22, 490
404X	Ｄ商品	X	…	136	994, 700	…	60, 677	1. 7%	16, 900
101X	Ａ商品	X	…	100	1, 729, 500	…	126, 254	2. 6%	44, 960
202Z	Ｂ商品	Z	…	181	824, 455	…	56, 888	2. 2%	18, 130
303Y	Ｃ商品	Y	…	96	882, 000	…	57, 330	3. 3%	29, 100
404X	Ｄ商品	X	…	172	829, 400	…	50, 594	3. 5%	29, 020
101X	Ａ商品	X	…	76	1, 323, 644	…	96, 627	3. 5%	46, 320
202Z	Ｂ商品	Z	…	40	1, 291, 798	…	89, 135	2. 2%	28, 410
303Y	Ｃ商品	Y	…	141	1, 639, 050	…	106, 539	1. 5%	24, 580
404X	Ｄ商品	X	…	15	876, 525	…	53, 469	2. 6%	22, 780
						…			
	合　計		…		17, 751, 716	…	1, 198, 450		423, 640

条件

商品名
Ａ商品

商品別集計表

商品名	売上額	手数料	報奨金
Ａ商品	5, 464, 067		
Ｂ商品			
Ｃ商品			
Ｄ商品			

販売手数料一覧表をデータベースとし、データベースの中で条件を満たすレコードの合計を求める場合、ＤＳＵＭ関数を使用します。

＜ＤＳＵＭ関数＞

=DSUM（データベース，フィールド，条件）
※[データベース]と[条件]は見出し（項目名）を含めて設定します。
※[フィールド]は列の位置を示す番号や文字列を設定します。

この処理条件の場合は、

=DSUM（$A$2:$M$18，U$2，$T$8:$T$9）
※「Ａ２」セルから「Ｍ１８」セルは見出しを含めた「販売手数料一覧表」（＜出力形式１＞）の範囲
※「Ｕ２」セルは「商品別集計表」の見出し「売上額」
※「Ｔ８」セルから「Ｔ９」セルは別で作成した条件

となります。

(1) Ｔ１セルに表題、Ｔ２セルから横に問題文の＜出力形式２＞を参照し、「販売手数料一覧表」の見出しをコピーして貼り付け、商品名を入力します。

操作のポイント

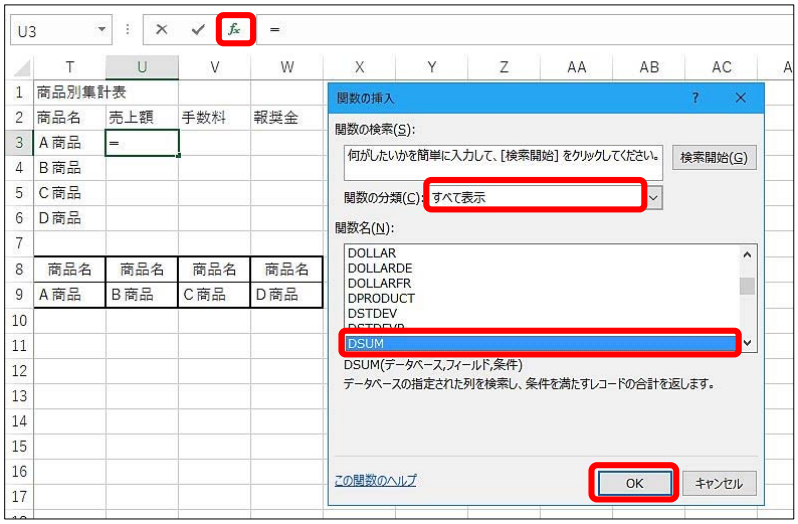
フィールドや検索条件となる見出しは、データベース範囲の見出しと完全に一致していないと正しく計算されません。見出しをコピーして貼り付けると、入力ミスが防げます。

(2) ＤＳＵＭ関数を設定する前に、条件設定セルをＴ８セルから作成します。

検定のポイント

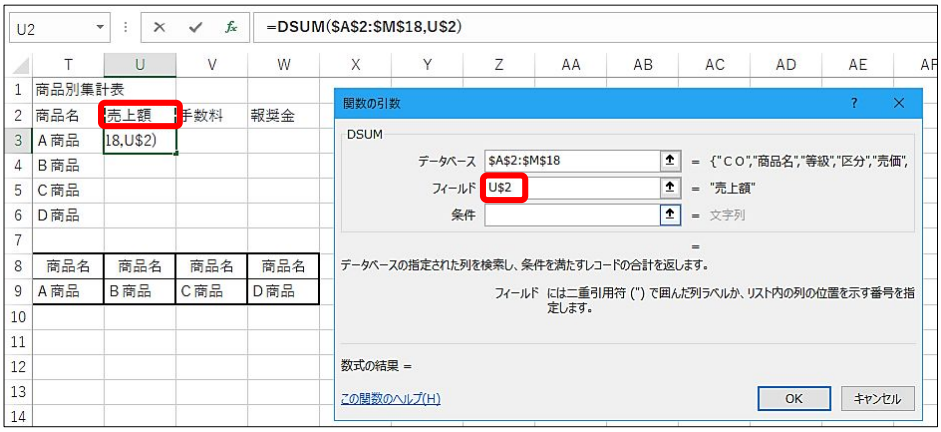
※条件設定の作成位置は問いません。
※条件設定セルの形式（罫線・文字位置）は問いません。

(3) 数式バーの f_x ［関数の挿入］をクリックします。[DSUM]が選択されているのを確認し、[OK]をクリックします。



(4) [データベース]に「販売手数料一覧表」のＡ２セルからＭ１８セルまでをドラッグして Ｆ４ キーを押し絶対参照にします。

(5) [フィールド]でＵ２セルをクリックして Ｆ４ キーを２回押し、複合参照（行固定）にします。

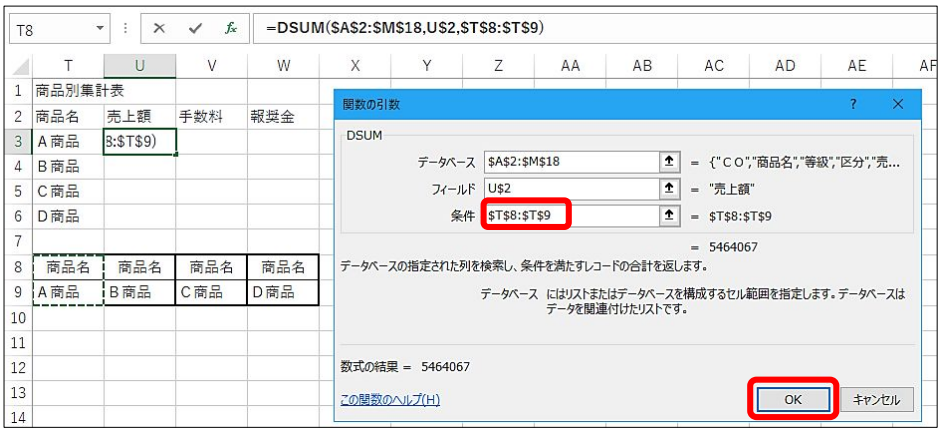


操作のポイント

複合参照について

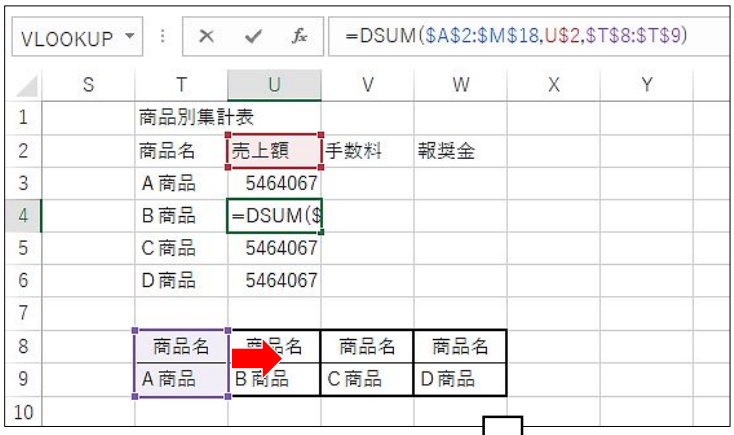
「フィールド」のセル指定を複合参照で行固定（U$2）にすることにより、行列コピーした後の引数を修正する手間が省けます。

(6) [条件]でＴ８セルからＴ９セルをドラッグして Ｆ４ キーを押し、[OK]をクリックします。

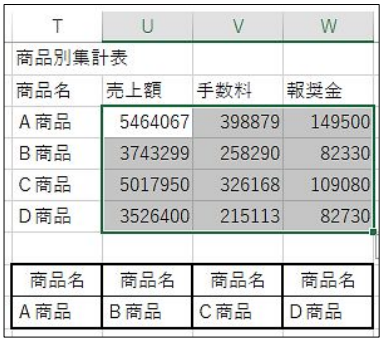


(7)売上額の項目のすべての行に関数をコピーします。

(8)数式バーをクリックし、条件設定セルのＴ８セル、Ｔ９セルを囲んでいる線をドラッグして、Ｂ商品の売上額をＵ８セル・Ｕ９セルに移動し Enter キーを押します。他の売上額も同様に行います。



(9)「手数料」「報奨金」へコピーします。



検定のポイント

その他のデータベース関数
ＤＳＵＭ関数と同様にリストまたはデータベースの指定された列を検索し処理します。

ＤＡＶＥＲＡＧＥ関数　条件を満たすレコードの**平均値**を返します。
ＤＭＡＸ関数 ・・・・　条件を満たすレコードの**最大値**を返します。
ＤＭＩＮ関数 ・・・・　条件を満たすレコードの**最小値**を返します。
ＤＣＯＵＮＴ関数 ・・　条件を満たすレコードの中で**数値のあるセルの個数**を返します。
※設定方法もＤＳＵＭ関数と同様に行います。

＜出力形式３＞の処理

11. 販売手数料一覧表を基に＜出力形式３＞のような処理をしなさい。（平均は整数未満四捨五入の表示とする）

データベース関数（DAVERAGE 関数・DCOUNT 関数・DSUM 関数）を使用して作成します。

条件が２つ以上ある条件設定セル
ＡＮＤ条件
後期数量が 500 より多く 700 より少ない売上額の平均

条件①：後期数量が 500 より多い
条件②：後期数量が 700 より少ない

条件①と条件②を横に並べると「①かつ②」と指定できます。

後期数量	後期数量
>500	<700

ＯＲ条件
等級が X または Z の手数料の合計

条件①：等級がＸ
条件②：等級がＺ

条件①と条件②を縦に並べると「①または②」と指定できます。

等級
X
Z

条件が異なる項目の場合のＯＲ条件
例）
前期数量が 500 以下または後期数量が 500 以下の件数

条件①：前期数量が 500 以下
条件②：後期数量が 500 以下

条件①の値と条件②の値の行をずらすと「①または②」と指定できます。

前期数量	後期数量
<=500	
	<=500

条件をＺ６セルから作成します。

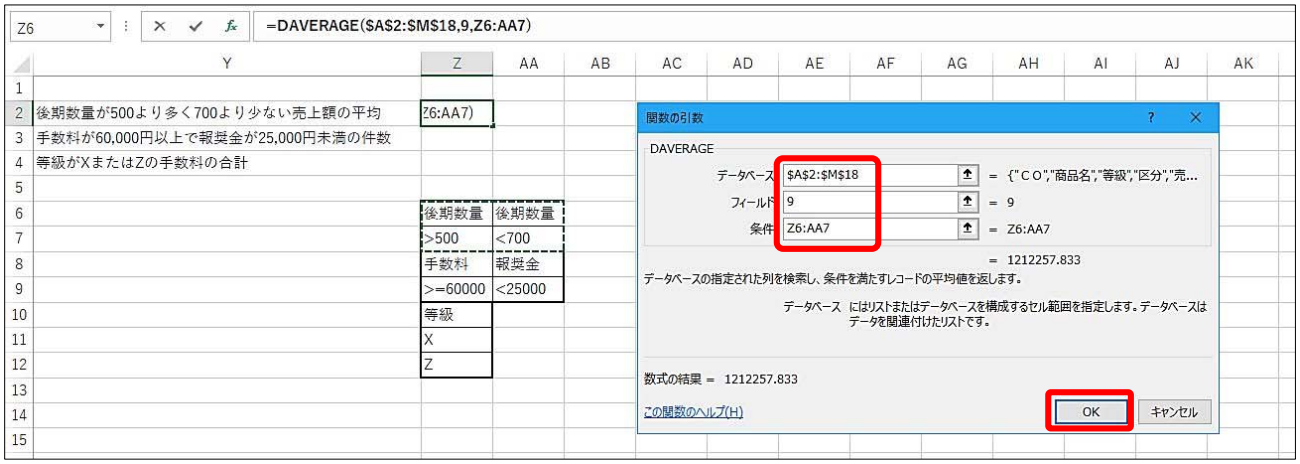
	Z	AA	AB
1			
2			
3			
4			
5			
6	後期数量	後期数量	
7	>500	<700	
8	手数料	報奨金	
9	>=60000	<25000	
10	等級		
11	X		
12	Z		

操作のポイント

※等号・不等号は必ず半角で入力してください。

後期数量が 500 より多く 700 より少ない売上額の平均

ＤＡＶＥＲＡＧＥ関数のダイアログボックスを使用して設定を行います。

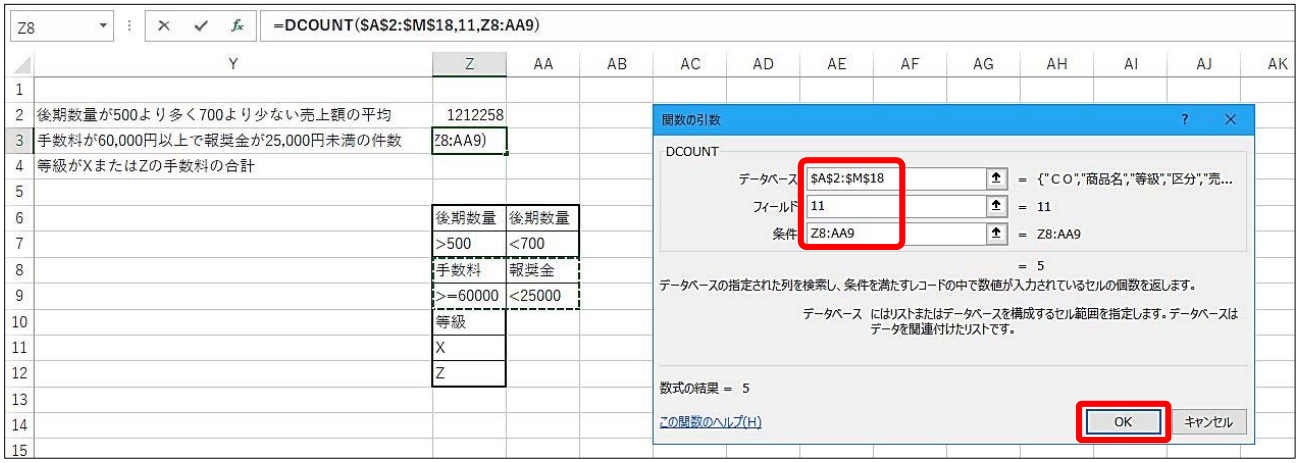


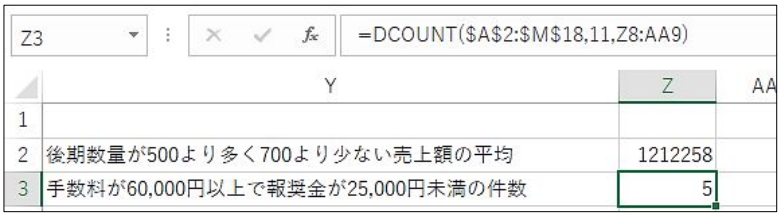
操作のポイント

※[フィールド]は位置を示す番号を入力しています。（例：「9」はデータベース範囲の９列目）
※データベース範囲を指定する際は、合計行を含めると値が変わってしまう場合があるので、合計行は含めないように注意しましょう。

手数料が 60,000 円以上で報奨金が 25,000 円未満の件数

ＤＣＯＵＮＴ関数のダイアログボックスを使用して設定を行います。





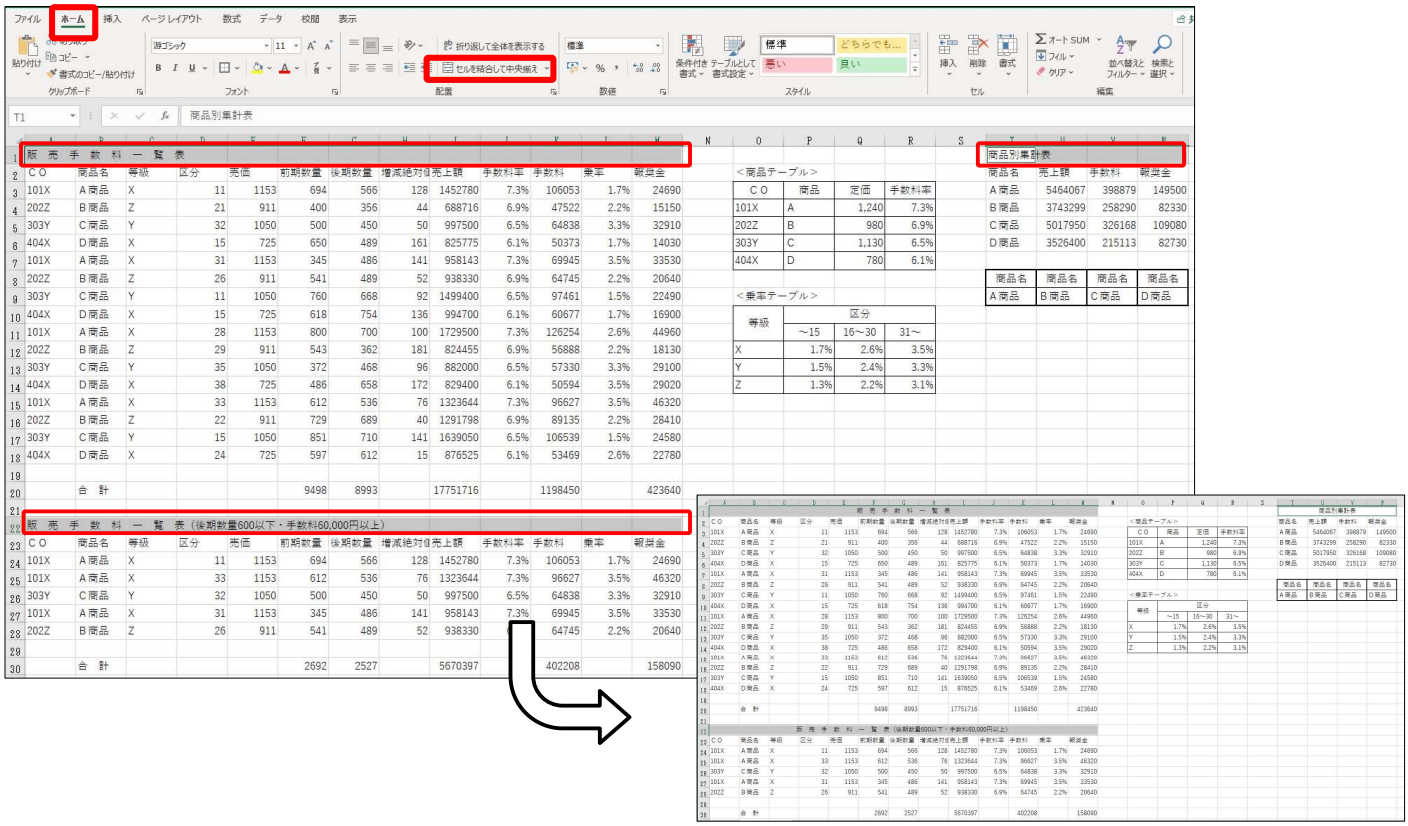
等級が X または Z の手数料の合計

ＤＳＵＭ関数のダイアログボックスを使用して設定を行います。

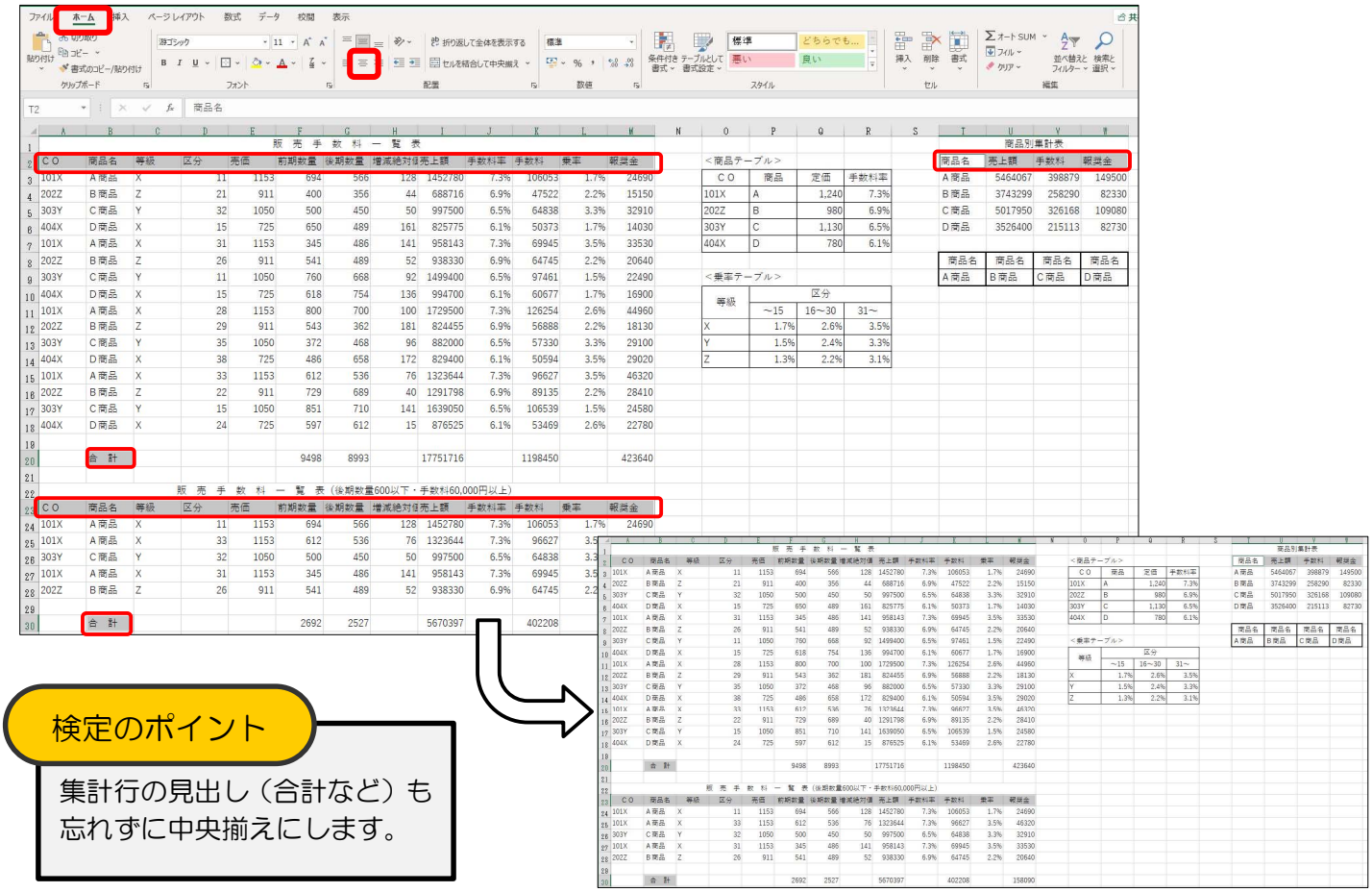
表示形式・配置の処理

ここまでの処理が完了したら、＜問題＞に指示されている「表題は表の中央」「見出しは中央揃え」「文字は左揃え」「数字は右揃えとし、３桁ごとにコンマをつける」を行います。

(1)表題を配置する範囲を選択し、[ホーム]タブ-[配置]グループの[セルを結合して中央揃え]をクリックします。



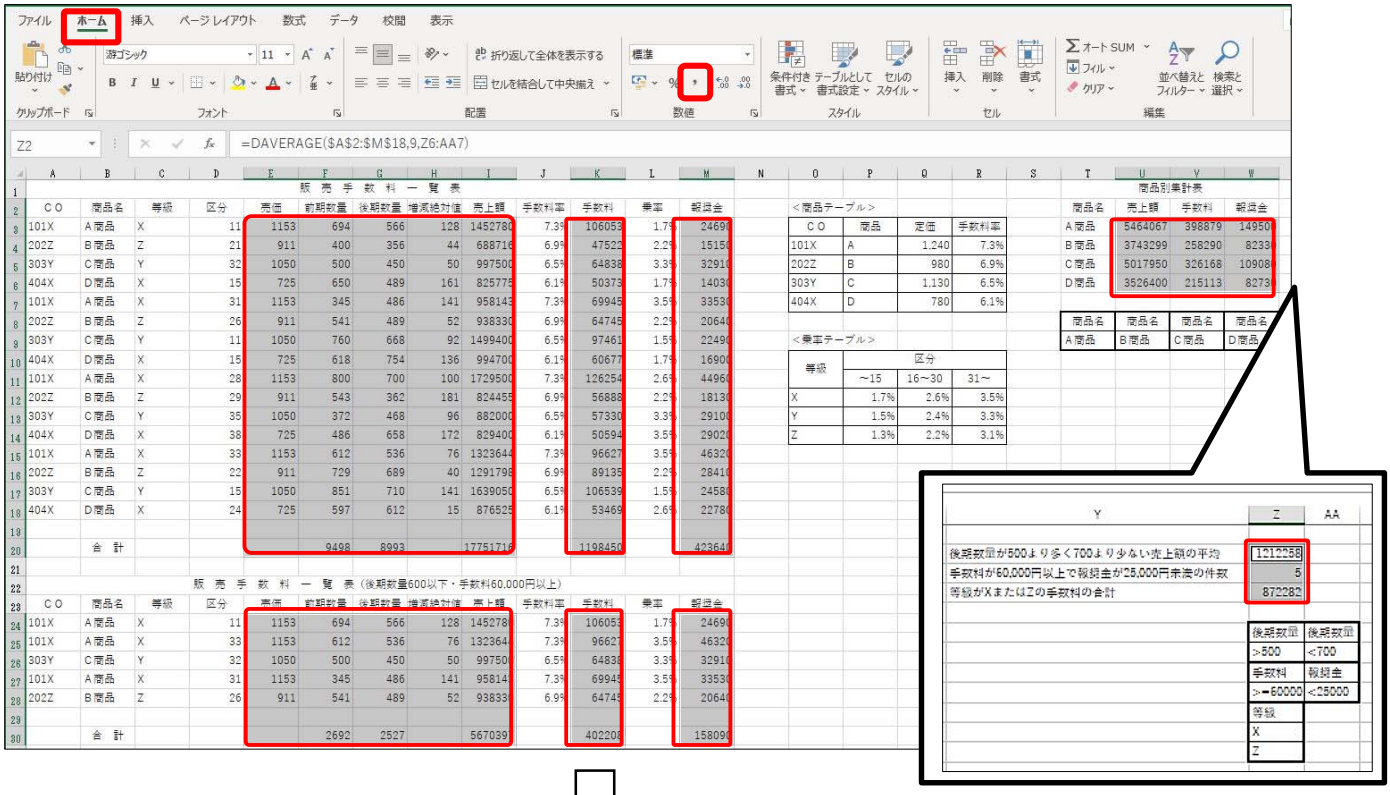
(2)見出しを選択し、[ホーム]タブ-[配置]グループの[≡]をクリックします。

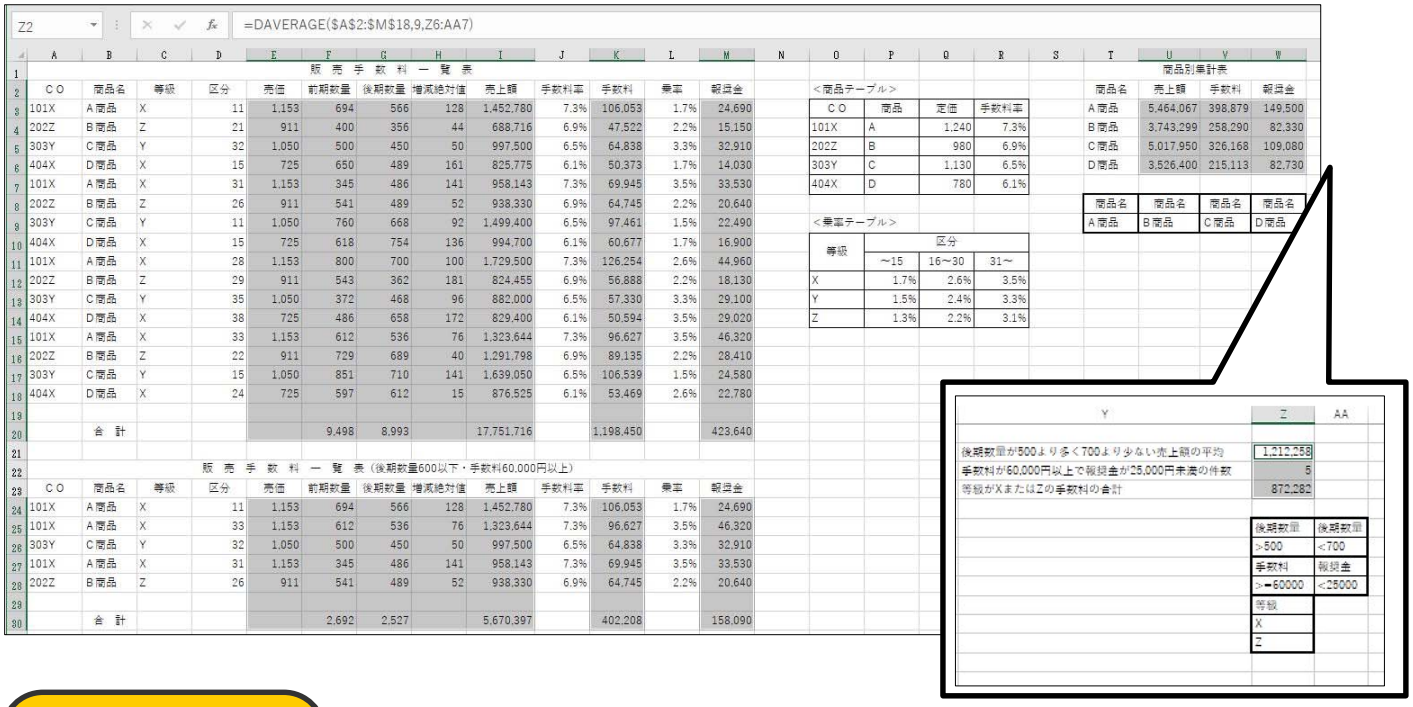


検定のポイント

集計行の見出し（合計など）も忘れずに中央揃えにします。

⑶ ３桁ごとにコンマをつける数値のセルを選択し、[ホーム]タブ-[数値]グループの , をクリックします。





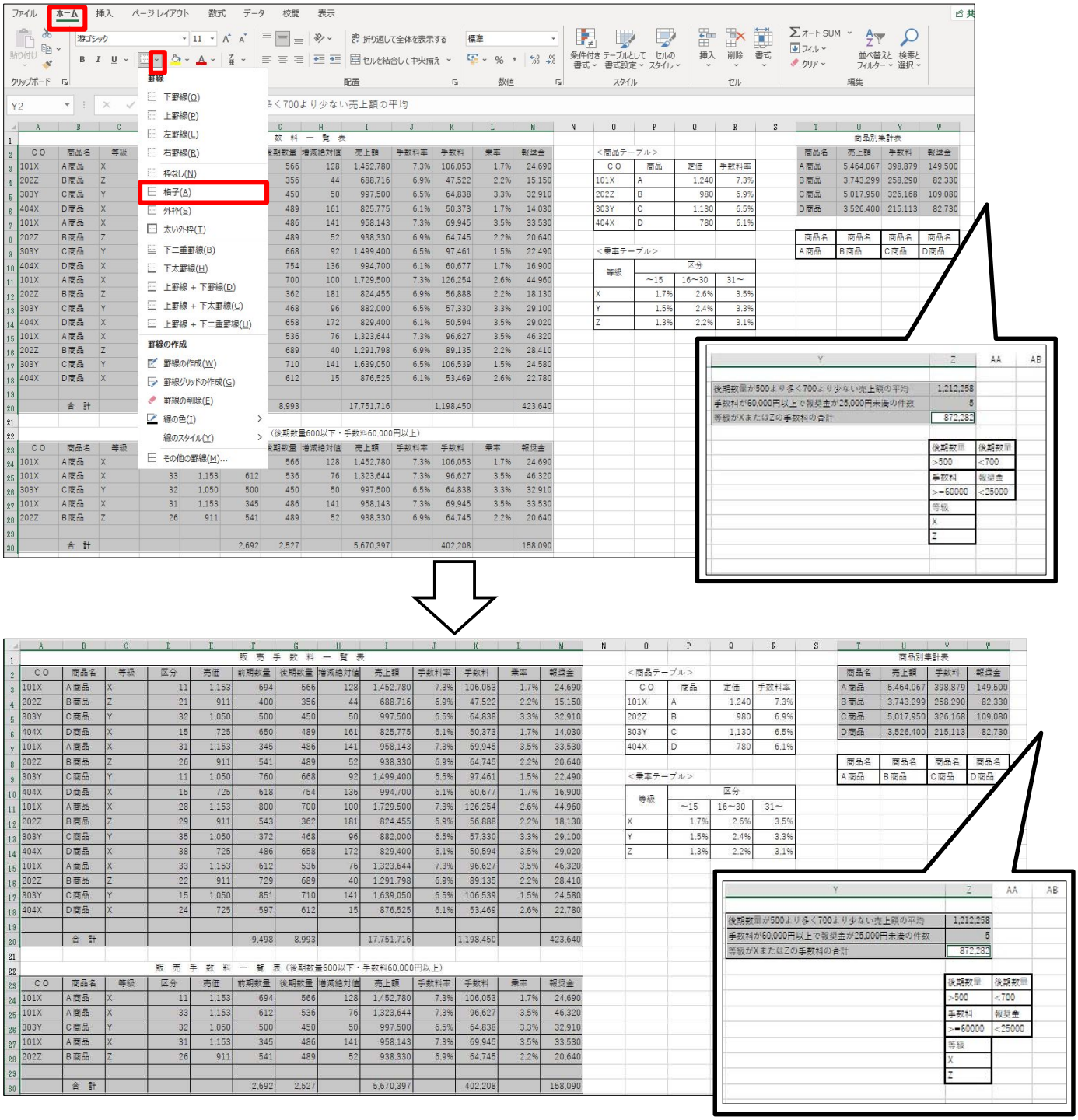
検定のポイント

「平均」が「整数未満四捨五入の表示」となります。

12. 罫線の太線と細線を区別する。（外枠は太線とする）

各表に罫線を設定します。

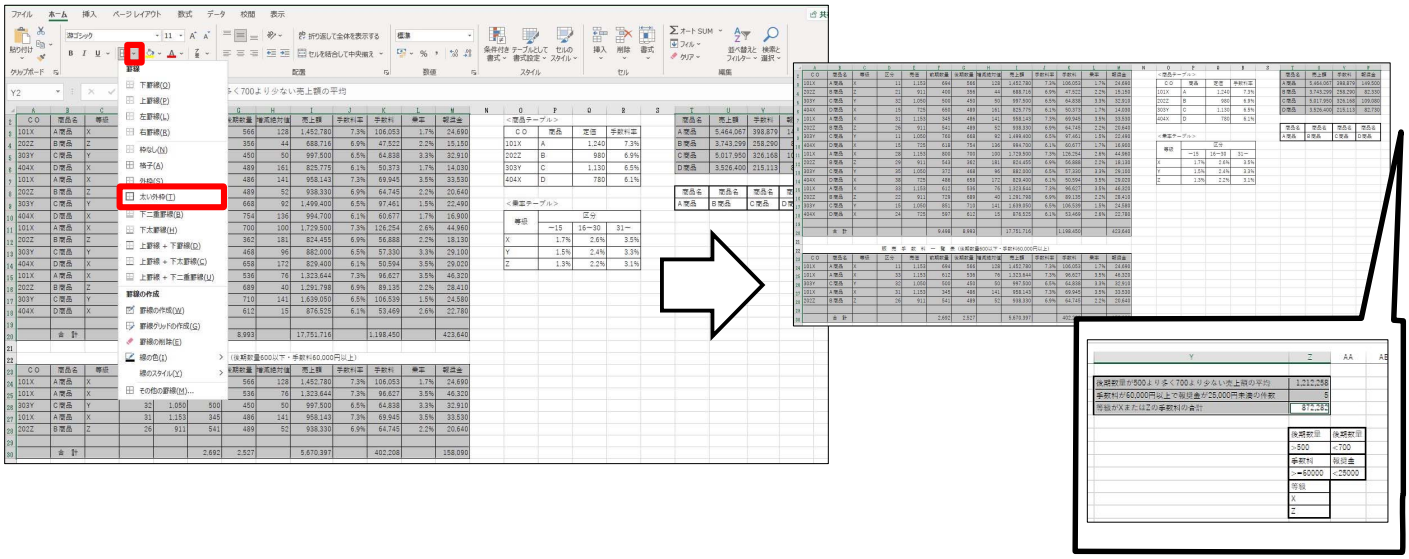
(1) 罫線を設定する表を選択して[ホーム]タブ-[フォント]グループの⊞の横にある▾をクリックし、⊞ 格子(A) [格子]を選択します。



操作のポイント

表が大きい場合、表の右下から左上にドラッグして選択すると選択漏れが起きにくくなります。

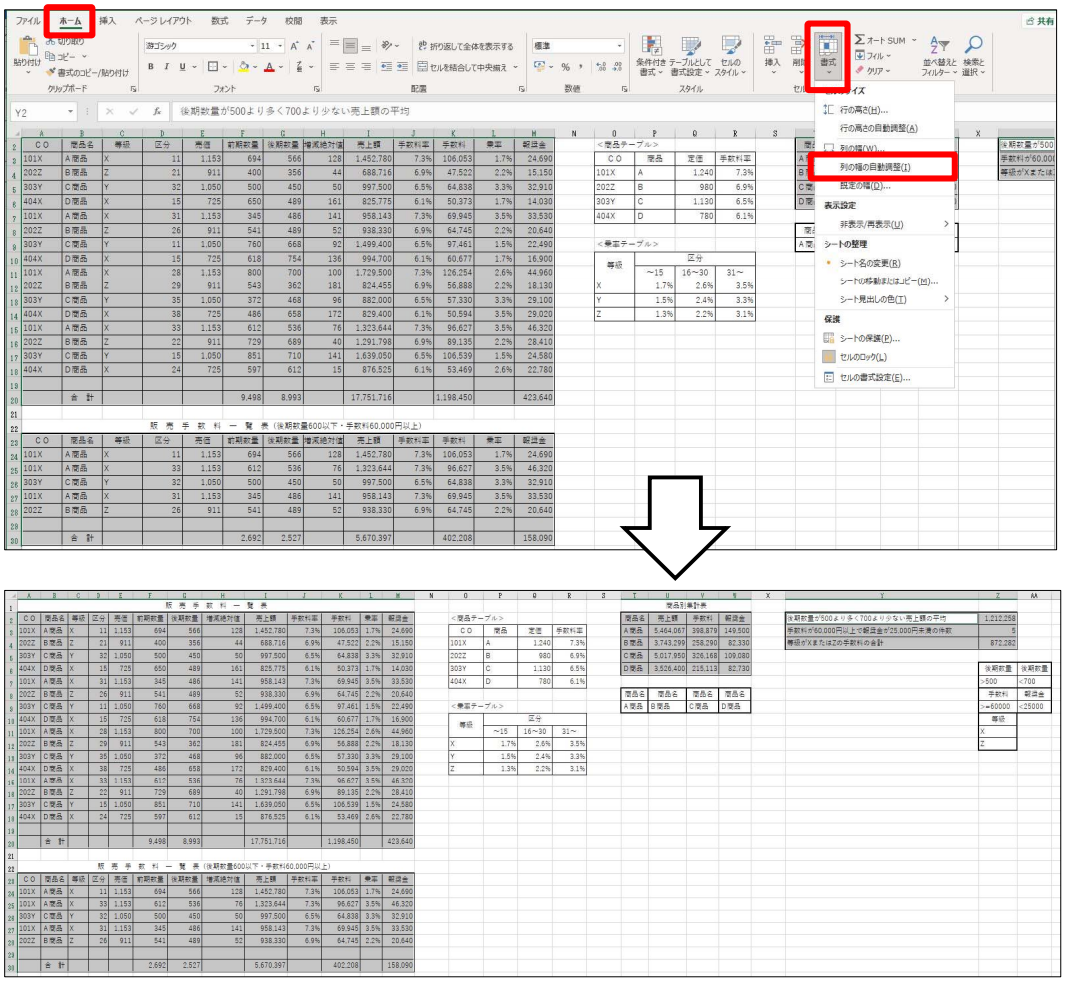
⑵ 再度 の をクリックし 太い外枠(T) [太い外枠]を選択します。



列の幅自動調整

表の列幅を調整します。

罫線の処理で範囲選択したまま、[ホーム]タブ-[セル]グループの 書式 [書式]をクリックし、[列の幅の自動調整]を選択します。



検定のポイント

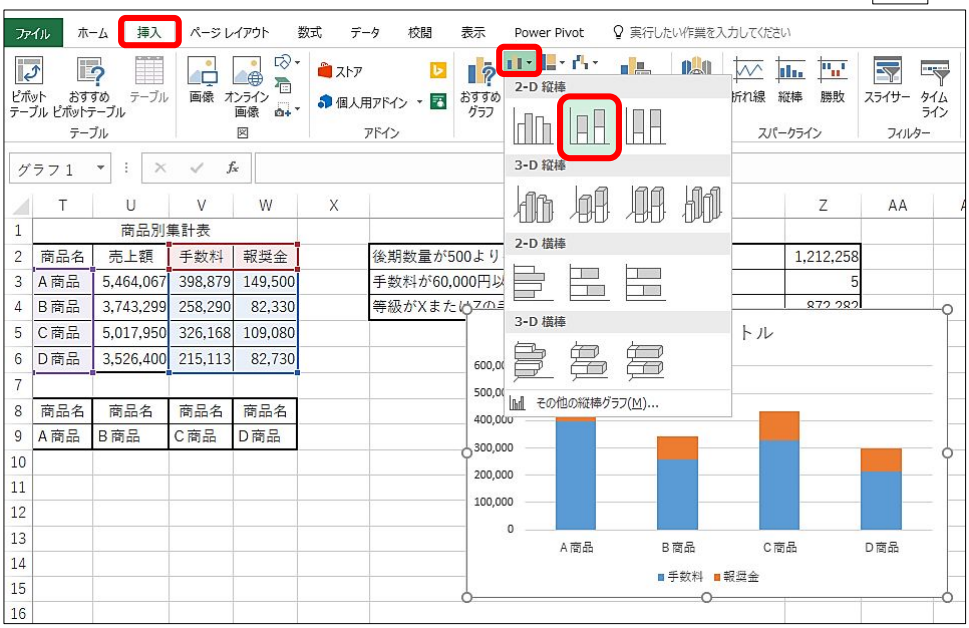
画面では表示されていても、印刷プレビューや印刷する際に値が「#####」と表示されている場合があります。列の幅の自動調整を使用するとそのようなミスを防げます。

グラフの処理

13. ＜出力形式２＞の手数料・報奨金を商品名別の積み上げ縦棒グラフにしなさい。
タイトルは“手数料・報奨金の比較”とし、凡例は“手数料”、“報奨金”とする。

(1)「商品別集計表」（＜出力形式２＞）の「商品名」列のＴ２セルからＴ６セルまでをドラッグし、キーボードの Ctrl キーを押しながら「手数料」と「報奨金」列のＶ２セルからW６セルまでを選択します。

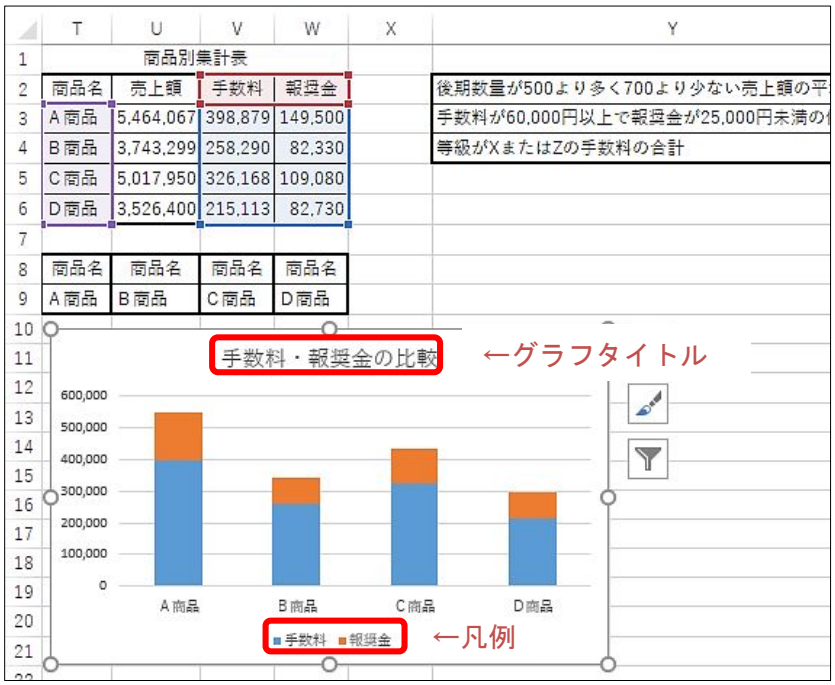
(2)[挿入]タブ-[グラフ]グループの をクリックし、２－D縦棒の [積み上げ縦棒]を選択します。



検定のポイント

挿入したグラフは表と重ならないよう配置します。

⑶幅を広げて調整します。「グラフタイトル」をクリックし、「手数料・報奨金の比較」と修正し、凡例が指示どおり表示されていることを確認します。



これで、本問題は完了となります。

試験後にすること

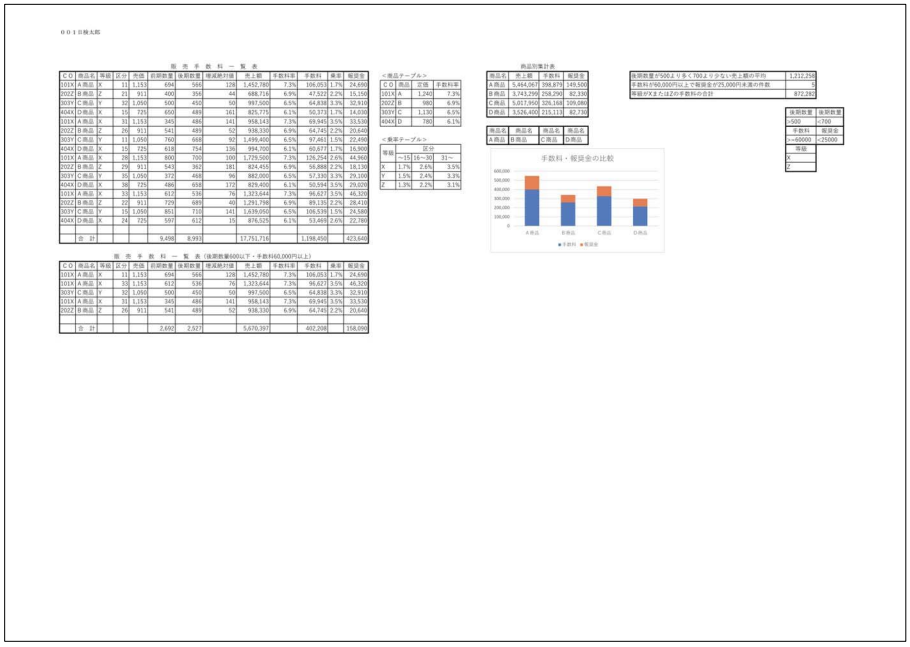
解答の印刷

解答の印刷は試験時間後に行います。試験監督の指示に従ってください。

検定のポイント

※印刷が２ページにわたっていても構いませんが、一つの表が２ページにわたっている場合は減点となりますので気を付けてください。
※縮小印刷する場合は、文字・数値が小さくなりすぎないよう気を付けてください。
※グラフを選択したまま印刷するとグラフのみが印刷されるので選択は解除してください。

解答の印刷例

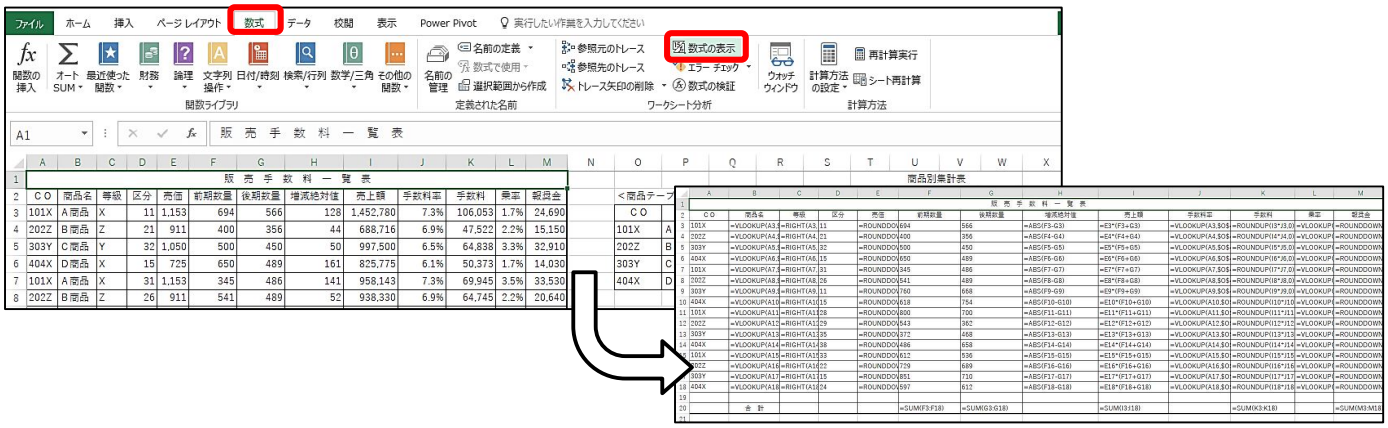


結果データの保存または数式印刷

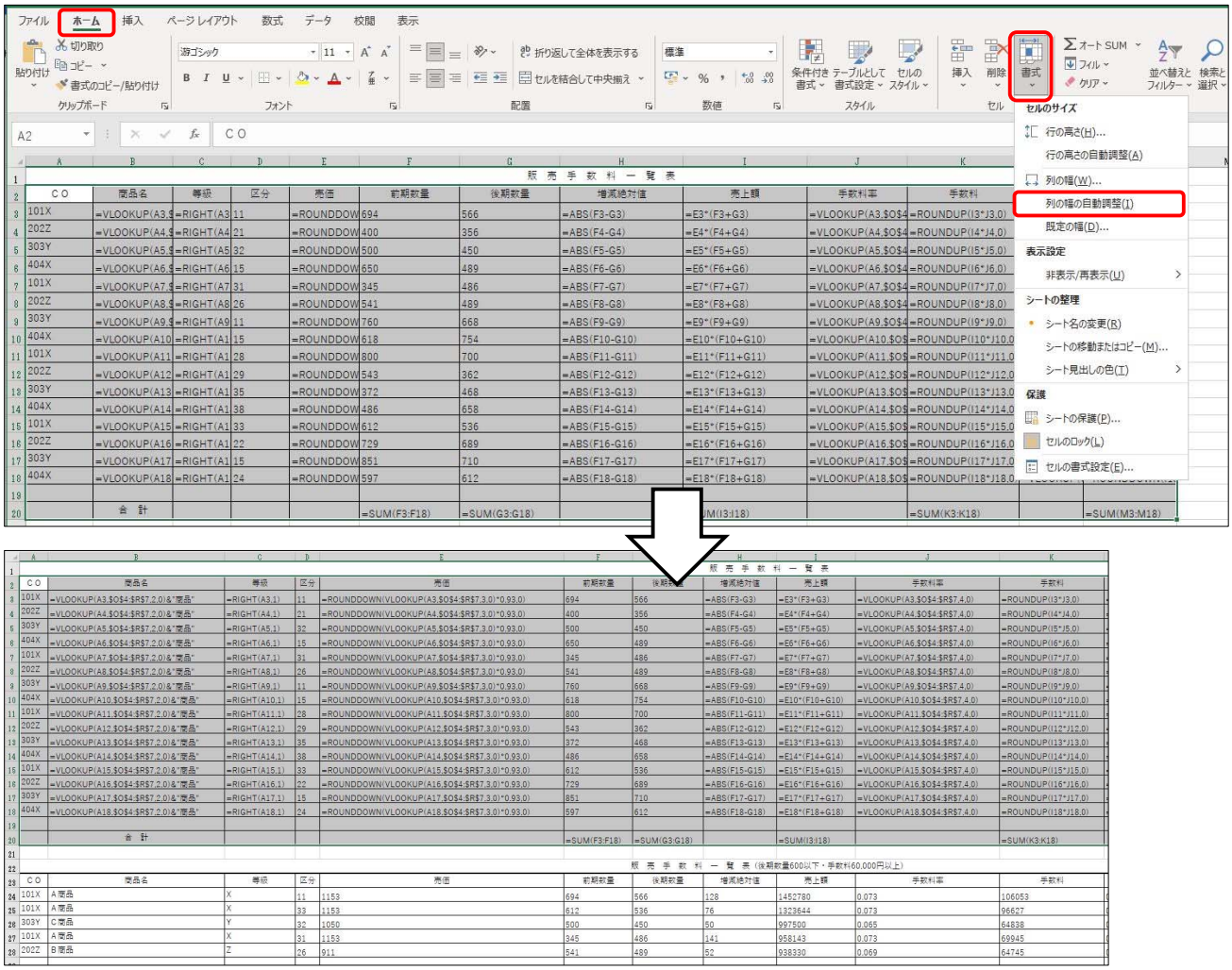
保存媒体への結果データの保存または数式印刷を行います。試験監督の指示に従ってください。

【数式印刷の場合】

(1)[数式]タブ-[ワークシート分析]グループの[数式の表示]を選択すると、すべて数式表示になります。



(2)列の幅を調整するセルを選択して[ホーム]タブ-[セル]グループの[書式]から[列の幅の自動調整]を選択し、すべての数式が確認できるようにします。



(3)試験監督の指示に従って、印刷をします。

その他の問題

練習問題にない処理条件について解説します。

「評価」項目の処理

評価は＜評価表＞を参照し、求めなさい。

＜評価表＞

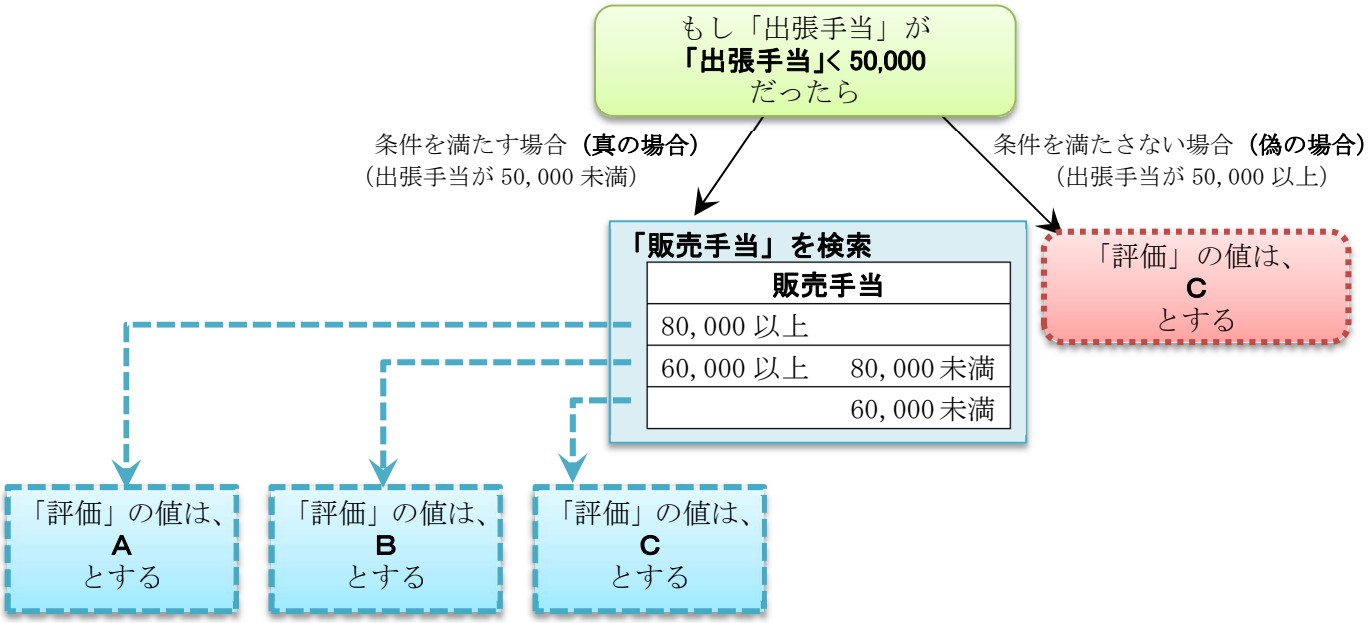
出張手当	販売手当	評価
50,000 未満　かつ	80,000 以上	A
50,000 未満　かつ	60,000 以上　80,000 未満	B
それ以外		C

＜評価表＞

出張手当	販売手当	評価
50,000 未満　かつ	80,000 以上	A
50,000 未満　かつ	60,000 以上　80,000 未満	B
それ以外		C

↑ 条件　　↑ 結果

以下のように上から順に考えます。



この条件は、「出張手当」と「販売手当」の複数条件なので、「ＩＦ関数」と「ＶＬＯＯＫＵＰ関数」を使用します。

```
=IF(「出張手当」<50000, VLOOKUP 関数, "C")
```

※[偽の場合]のＣは出張手当が 50,000 未満ではない場合

販売手当の条件のみで判断すると以下の表のようになります。

販売手当	評価
80,000 以上	A
60,000 以上　80,000 未満	B
60,000 未満	C

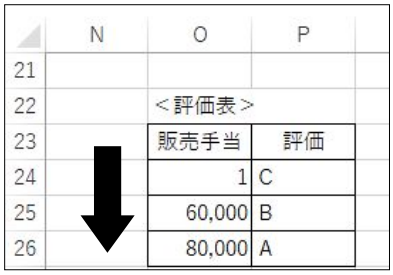
これをＶＬＯＯＫＵＰ関数で表します。

```
=IF(G16<50000, VLOOKUP(H16, $O$24:$P$26, 2, 1), "C")
```

※「Ｇ１６」セルは「出張手当」、「Ｈ１６」セルは「販売手当」

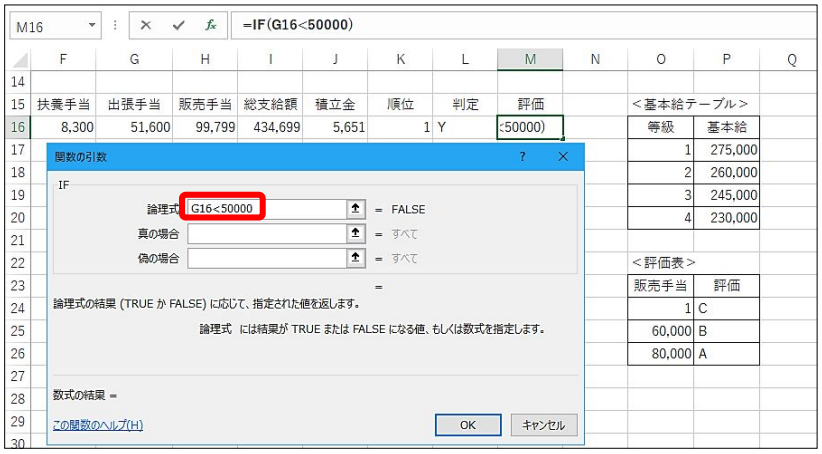
※「Ｏ２４」セルから「Ｐ２６」セルは別で作成した項目名を含めない＜評価表＞

(1)販売手当を検索するためのテーブルをＯ２２セルから作成します。

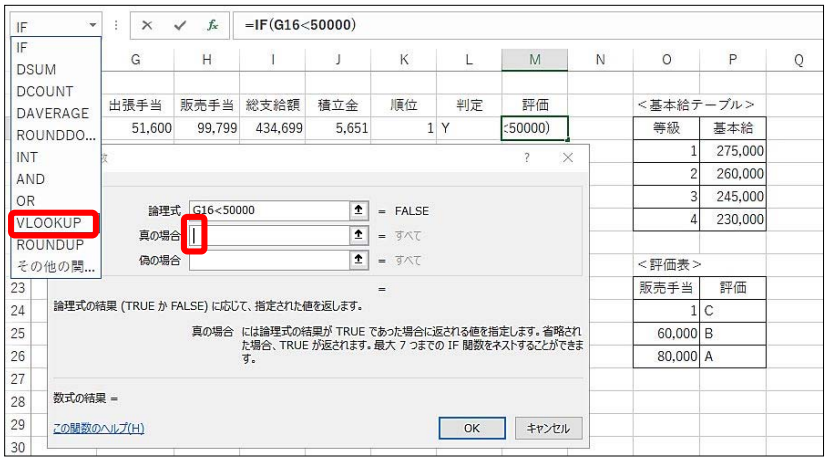


１以上 60,000 未満はＣ
60,000以上 80,000 未満はＢ
80,000以上はＡ
となるようにテーブルを作成します。

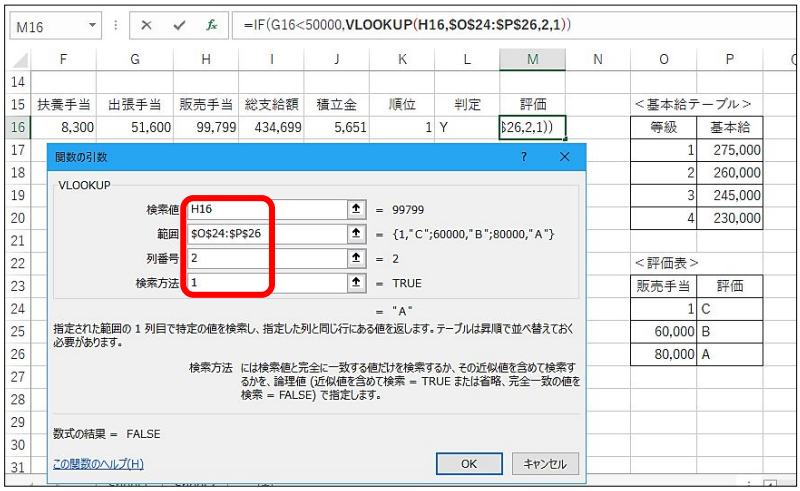
(2)[関数の挿入]ダイアログボックスで、[ＩＦ]をクリックし[論理式]に「G16<50000」と入力します。



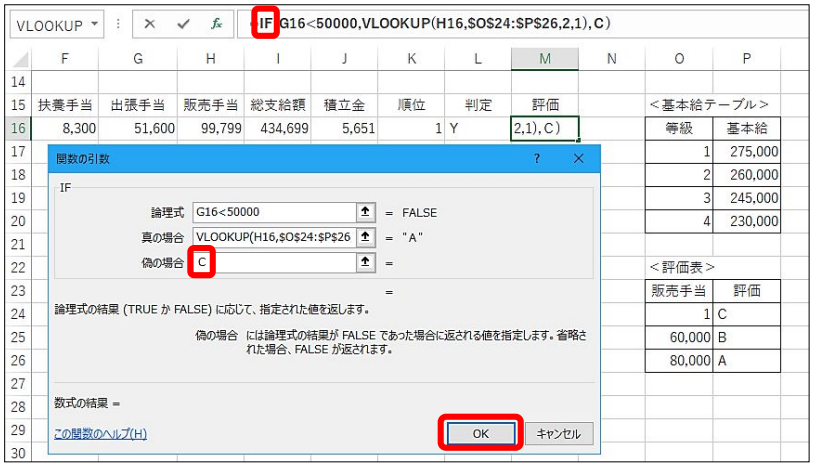
(3)[真の場合]にカーソルがある状態で[名前ボックス]から[ＶＬＯＯＫＵＰ]を選択します。



(4)検索値を「販売手当」にし、＜評価表＞を参照して設定を行います。



⑸ ＩＦ関数のダイアログボックスに戻り、[偽の場合]に判定「Ｃ」と入力して[OK]をクリックします。



検定のポイント

アルファベットは全半角問いません。

操作のポイント

検索方法について

ＶＬＯＯＫＵＰ関数の検索方法には完全に一致する値だけを検索するか、その近似値を含めて検索するかを設定できます。

「販売手当」の場合、後者の検索方法で評価を取り出します。

その近似値を含めて検索すると、検索値と同じ値が見つからない場合、検索値未満で最も大きい値を取り出します。

例）総支給額一覧表の販売手当（検索値）が「70, 000」の場合

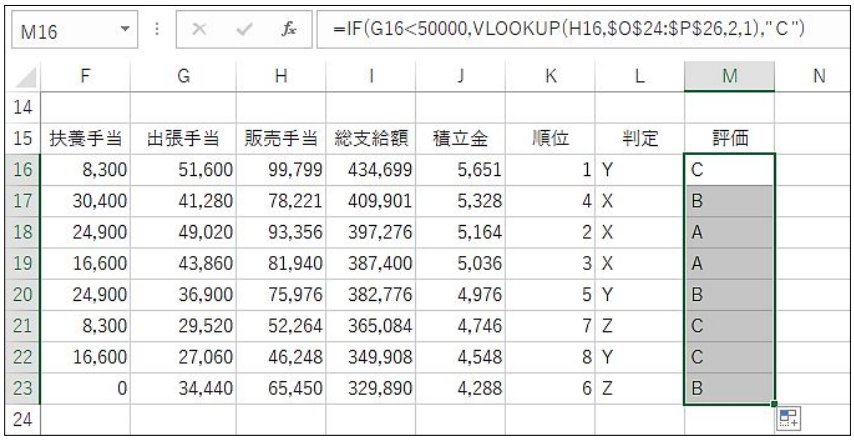
＜評価表＞１列目の販売手当の中で
「70, 000」未満で最も大きい値は「60, 000」

＜評価表＞

販売手当	評価
1	C
60, 000	B
80, 000	A

※近似値での検索の場合、必ず検索する範囲の１列目を昇順でテーブルを作成します。

⑹ 結果が表示されていることを確認し、Ｍ２３セルまでコピーします。



扶養手当	出張手当	販売手当	総支給額	積立金	順位	判定	評価
8,300	51,600	99,799	434,699	5,651	1	Y	C
30,400	41,280	78,221	409,901	5,328	4	X	B
24,900	49,020	93,356	397,276	5,164	2	X	A
16,600	43,860	81,940	387,400	5,036	3	X	A
24,900	36,900	75,976	382,776	4,976	5	Y	B
8,300	29,520	52,264	365,084	4,746	7	Z	C
16,600	27,060	46,248	349,908	4,548	8	Y	C
0	34,440	65,450	329,890	4,288	6	Z	B

Microsoft , Access , Excel , PowerPoint , Windows , Word は、マイクロソフト グループの企業の商標です。
その他、本書に登場する製品名は、一般に各開発メーカーの商標および登録商標です。
本文中には、™、®マークは明記しておりません。